

資料

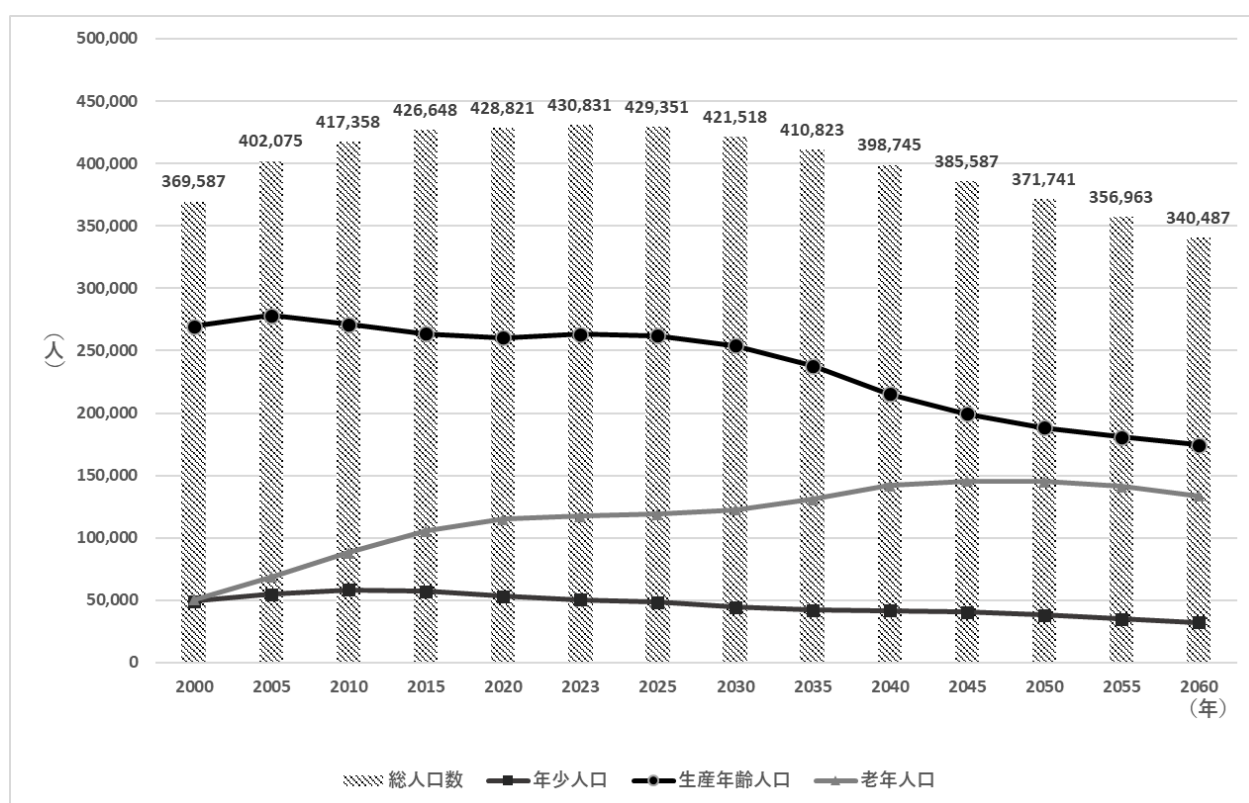
1 町田市の基本データ

(1) 町田市の特徴

①人口

町田市の人口は、2023 年をピークに人口減少に転じ、2030 年から 2060 年の期間で減少の割合が大きくなっています。

高齢化に伴い、買い物難民の増加が懸念されています。市内では、買い物難民解消のための支援として、移動スーパー等が導入されています。



資料：町田市ホームページ

②みどり豊かな丘陵地

町田市北部の丘陵地域は、里山や田園風景が残り、鶴見川の源流を有するみどり豊かな自然が息づく、首都圏の貴重な資産です。

この貴重な自然環境を将来の世代に引き継ぐため、市は樹林地や農地の保全・再生に取り組んでいます。

③農業

町田市は生産地と消費地との距離が近いという利点を活かし、農業者は市民に良質な農畜産物や植木・鑑賞用の植物を供給しています。野菜は、消費者の多様なニーズに応えられるよう少量多品目栽培を行っています。町田市の農業産出額上位3品目は、1位:トマト、2位:ナス、3位:ホウレンソウです。露地栽培農家が中心となっている中で、年間を通して安定供給を行うためのビニールハウス等の施設整備も進んでいます。

市民が農業とふれあうため、自由に農作業を楽しめる「市民農園」や、農業者に農作業を教わりながら楽しめる「農業体験農園」が整備されています。果樹では、「禅寺丸柿」が代表的であるほか、ブルーベリーの生産が盛んで、市内には摘み取り体験方式による農園が点在しています。

肉用牛・酪農・養豚・養鶏を営む畜産農家は、都市的立地という難しい状況の中、品質の高い畜産物を市民に供給しており、市内ではブランド豚「TOKYO X」や、卵や牛乳を使用した加工品が製造されています。

④商業都市

小田急線とJR横浜線の町田駅を核とする中心市街地は、百貨店やファッションビルが軒を連ねる商業集積地です。駅前には飲食店が数多く出店しており、郊外には農産物直売所が数多く点在しています。近隣からも多くの人が集まり、商圈人口約230万人以上の一大商業都市へと発展しています。

市内ではまち☆ベジ市や日曜朝市が月に一回程度開催されており、野菜や花、卵、加工品等が市内農業者から直接購入することができます。農作物の生産地と消費地が近いことも町田市の特徴です。

⑤住宅都市

町田市では、首都圏の急激な人口増加による住宅需要を受け入れるべく、1958年に首都圏整備法による市街地開発区域第1号に指定されたことを契機に、大規模団地の建設や土地区画整理事業などが行われました。このため1960年代後半から1970年代前半にかけて急激に人口が増加しました。

その後は、ゆるやかで良好な開発の誘導や緑地の保全にまちづくりの方針を転換し、みどりの多い戸建住宅やゆとりある集合住宅など、住みよい環境を備えた住宅都市として発展してきました。

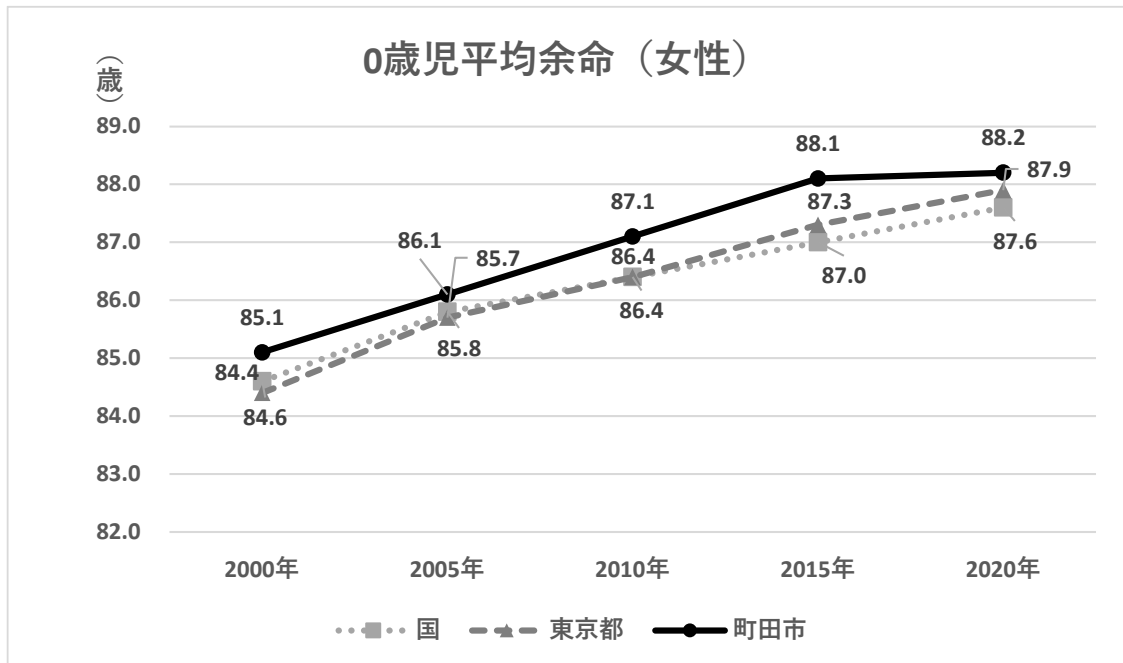
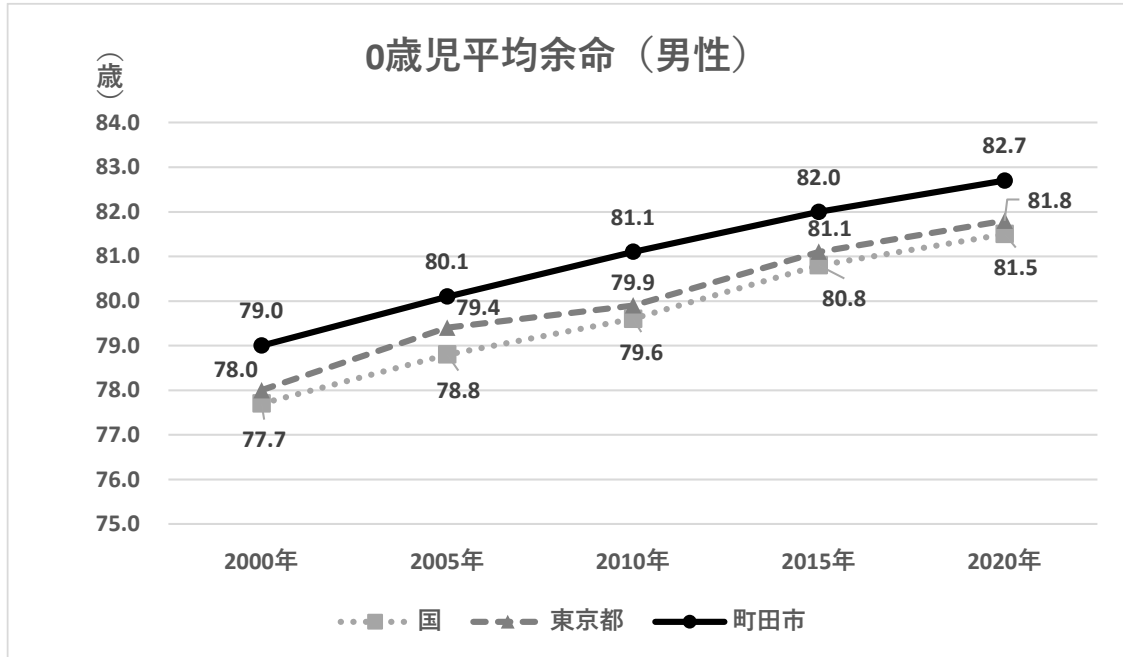
⑥大学・学園都市

市内や隣接地域に多くの大学、短期大学、専門学校などがあることから、町田市には、18歳から20歳の転入者が多いという特性があります。その特性を最大限に活かすため、地域の大学などと包括連携協定を締結し、学生が地域で活躍するための仕組みづくりや、大学施設の活用による地域住民の利便性の向上、市が持っている情報資源の提供による大学研究活動の充実などの取組を進めています。

(2)健康状況

①0歳平均余命

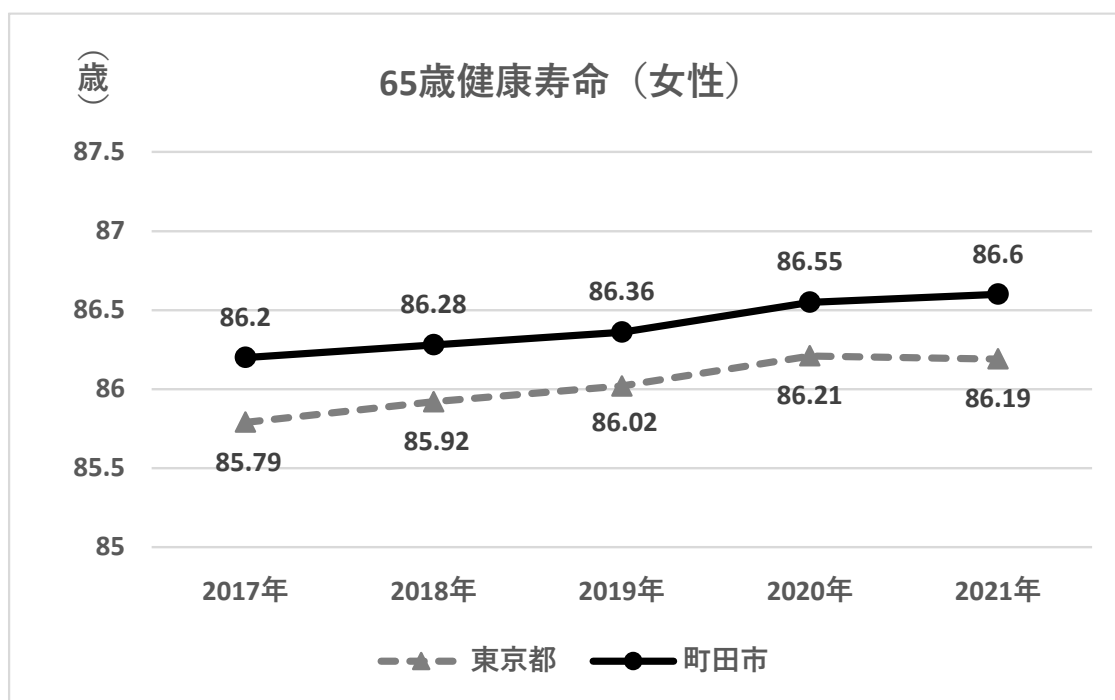
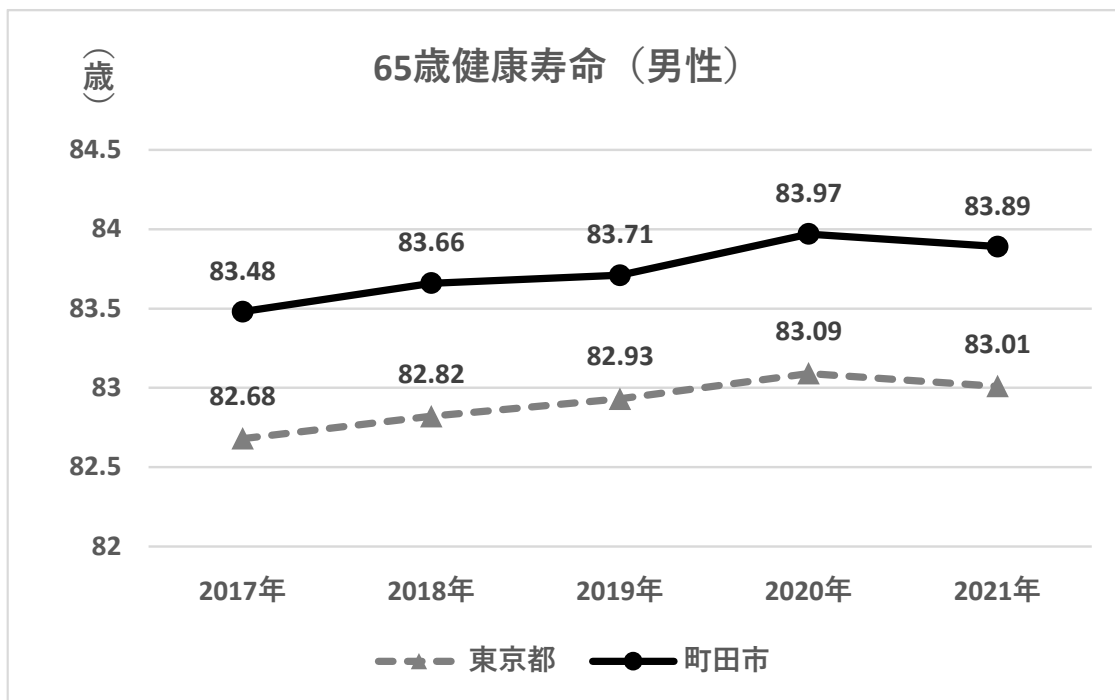
0歳平均余命は、男女ともに年々延びており、町田市は、国・都の平均余命よりも高い水準となっています。



資料：国勢調査

②65歳健康寿命

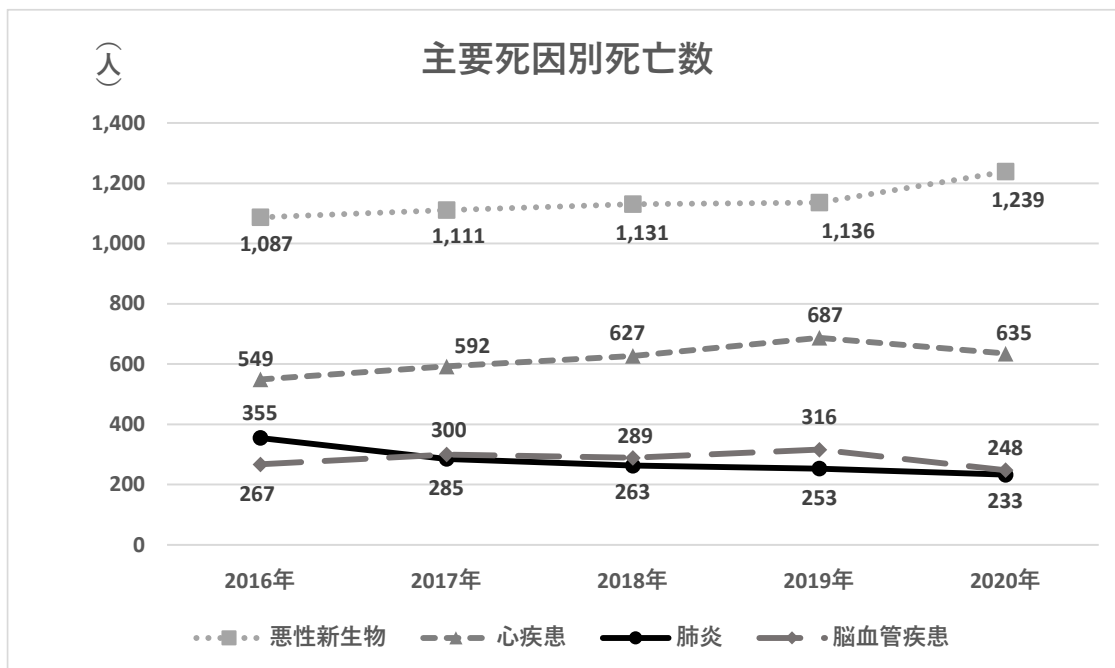
女性は、65歳健康寿命が年々延びています。町田市は、男女ともに東京都よりも高い水準となっています。



資料：東京都保健医療局

③主要死因別死亡数

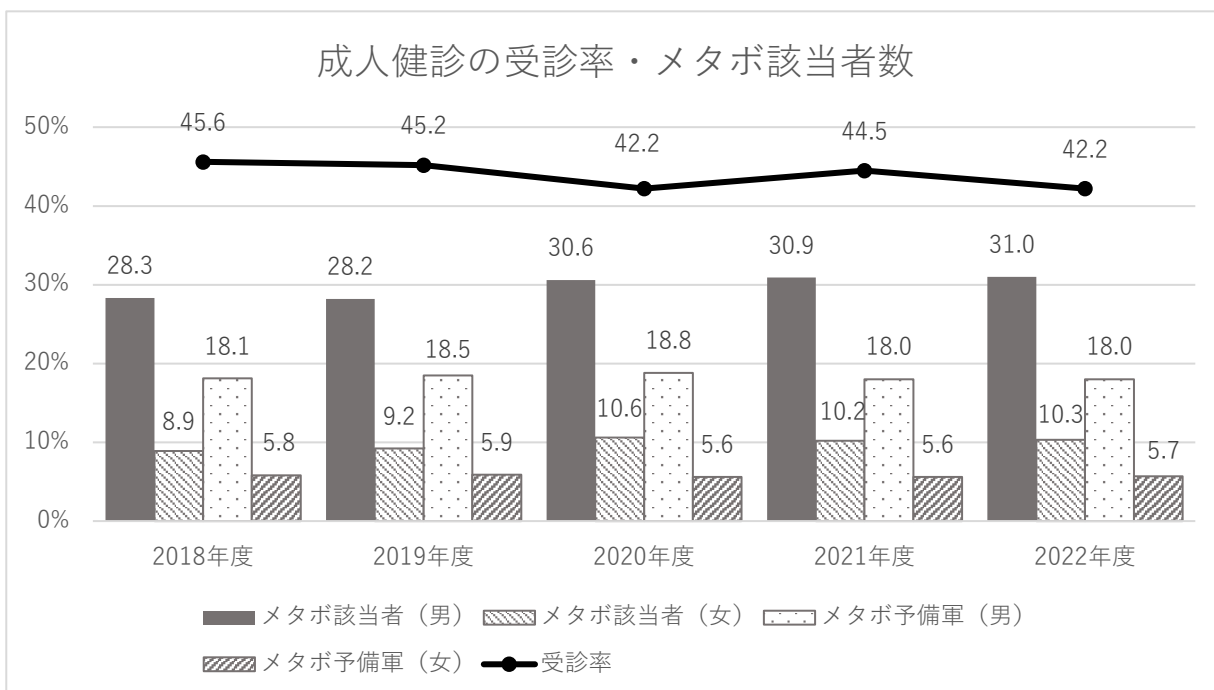
2020年の主要死因別死亡数をみると、第1位は、「悪性新生物(がん)」の1,239人、第2位は「心疾患」の635人、第3位は「脳血管疾患」の248人となっています。



資料:町田市統計書

④成人健診の受診率・メタボ該当者数

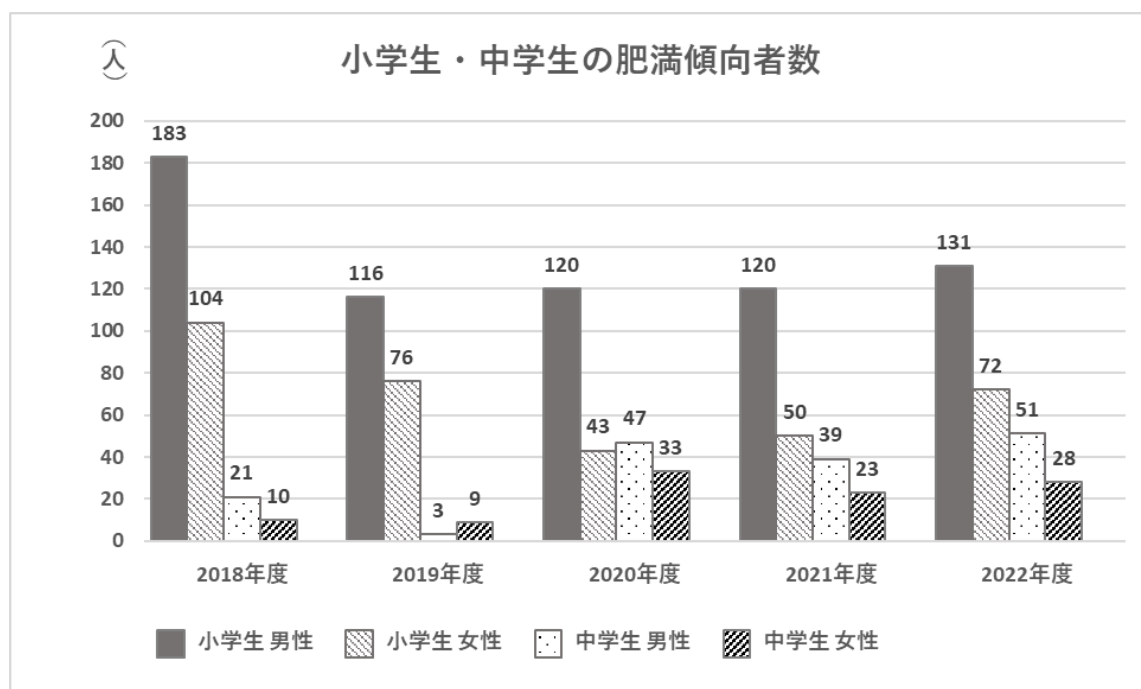
2018年度から2022年度の成人健診の受診率をみると、減少傾向となっています。また、メタボ該当者数は男女ともに増加傾向にあります。



資料：国保データベースシステム

⑤小学生・中学生の肥満傾向者数

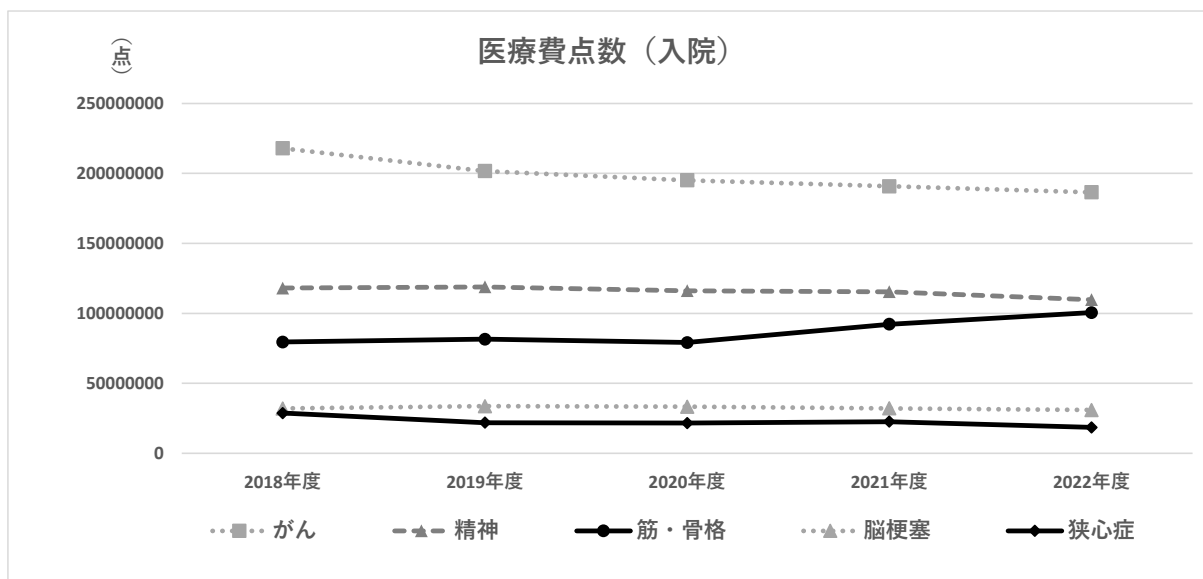
小学生・中学生の栄養状態について、肥満傾向者数は年によってばらつきがあります。



資料：町田の教育 2019～2023

⑥疾病別医療費(入院・外来)

疾病別医療費の入院では、「がん」が減少傾向となっています。一方、「筋・骨格」は年々増加傾向にあります。

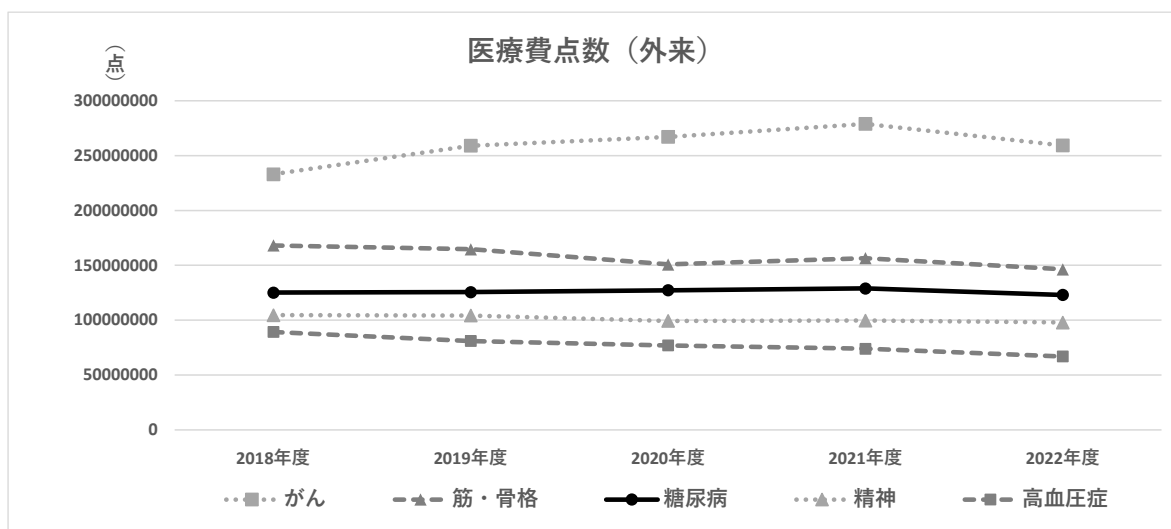


単位:点

疾病名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
がん	217,946,893	201,646,079	195,090,127	190,819,317	186,549,105
精神	118,043,500	118,890,330	116,175,392	115,467,167	109,741,765
筋・骨格	79,556,454	81,498,341	79,144,462	92,193,624	100,554,778
脳梗塞	32,066,579	33,678,858	33,268,002	32,102,818	30,929,770
脳出血	20,278,504	27,747,331	25,614,914	25,329,799	20,097,933
狭心症	28,744,172	21,845,772	21,646,031	22,619,938	18,543,678
糖尿病	8,512,372	8,563,028	7,135,535	8,038,587	8,791,141
心筋梗塞	13,325,648	10,488,804	10,234,908	8,026,722	6,123,037
動脈硬化症	1,502,691	2,703,031	1,070,746	1,519,594	1,480,524
高血圧症	1,974,193	1,123,140	964,928	1,016,229	920,888

資料:国保データベースシステム

疾病別医療費の外来では、「がん」は2021年度まで増加しており、その他の疾病はおむね一定に推移しています。



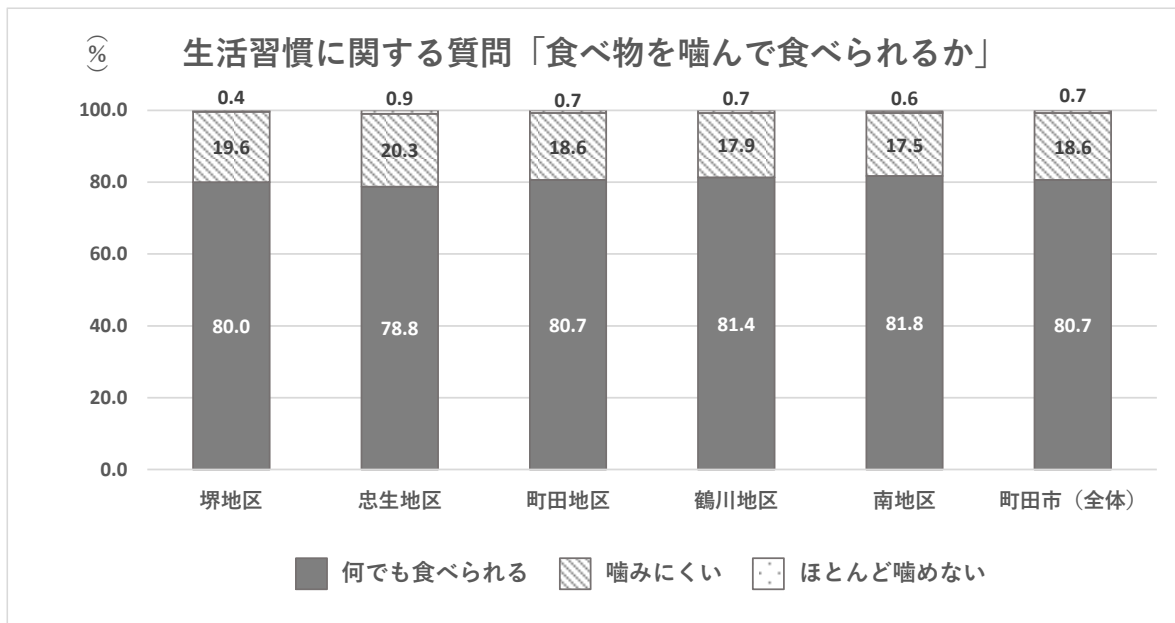
単位：点

疾病名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
がん	233,048,400	259,092,754	267,144,460	279,010,105	259,291,465
筋・骨格	168,152,969	164,741,820	150,849,845	156,530,639	146,395,361
糖尿病	125,099,232	125,581,859	127,249,270	128,981,749	123,020,773
精神	104,592,103	104,280,666	99,370,945	99,630,842	97,928,488
高血圧症	89,256,339	81,018,359	76,965,855	73,933,614	66,931,385
脂質異常症	71,819,443	69,630,916	63,995,944	64,159,332	56,096,620
狭心症	12,397,591	11,910,520	10,600,725	10,181,803	9,169,740
脳梗塞	9,548,170	8,428,405	8,178,470	8,156,228	7,734,671
脂肪肝	1,900,930	1,963,645	1,961,025	2,128,668	2,072,908

資料：国保データベースシステム

⑦摂食嚥下^{えんげ}困難者

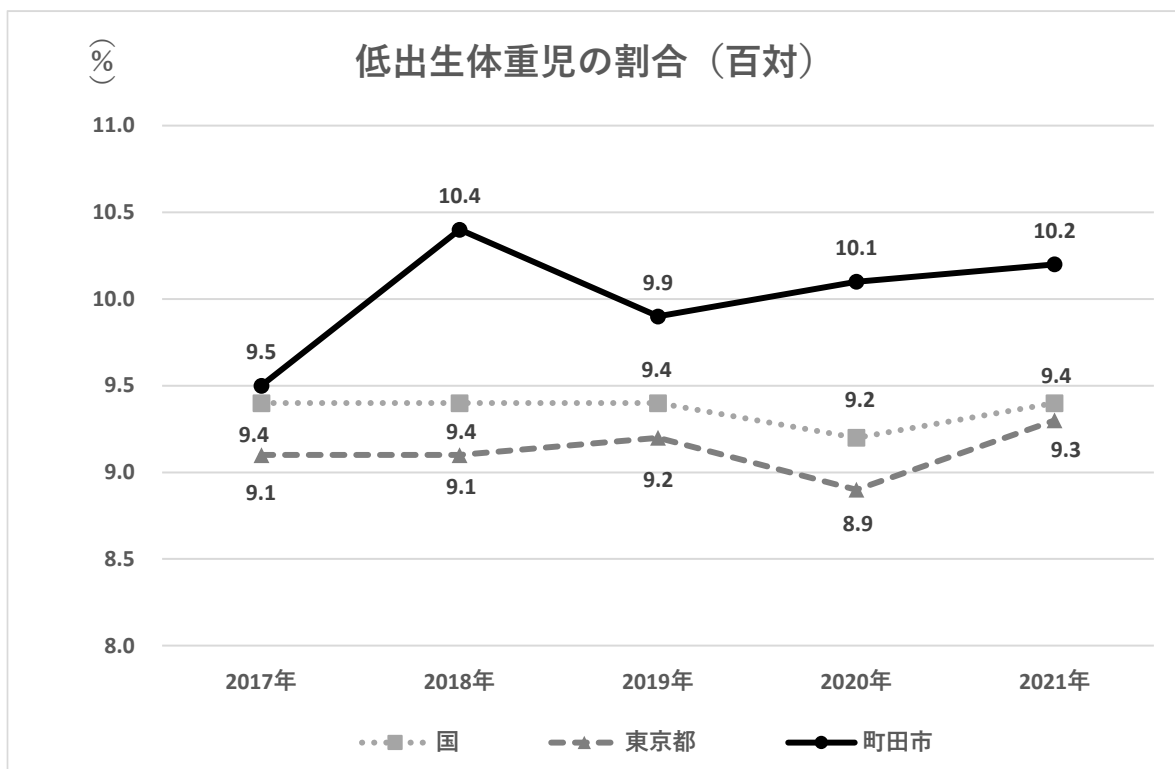
市民の約 8 割は、何でも嚙んで食べられる状況です。地区別にみると、堺・忠生地区で摂食嚥下困難者の割合が高くなっています。



資料：国保データベースシステム

⑧低出生体重児の割合

町田市では、国・都の割合を上回っています。

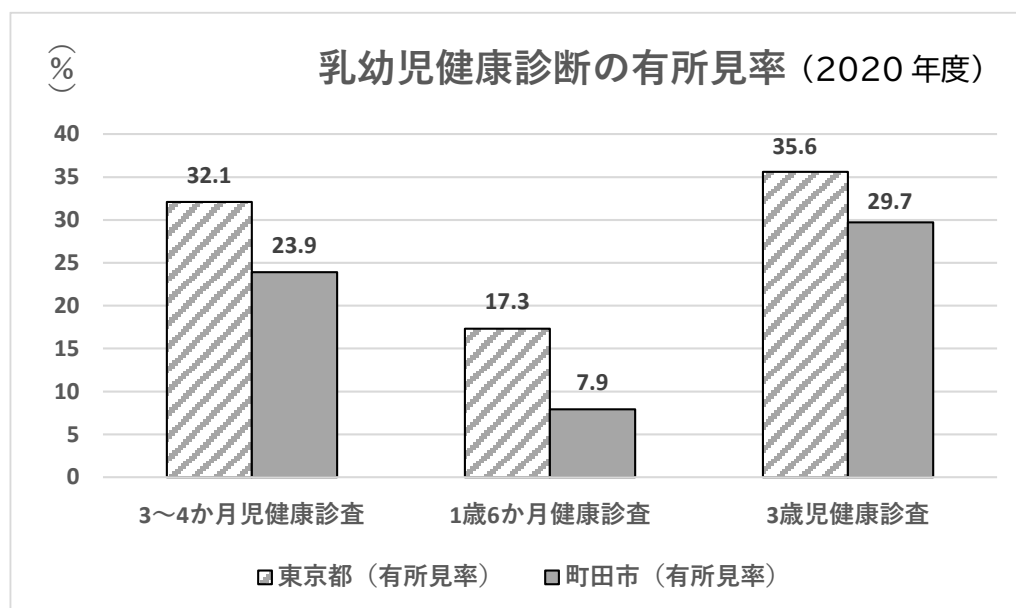
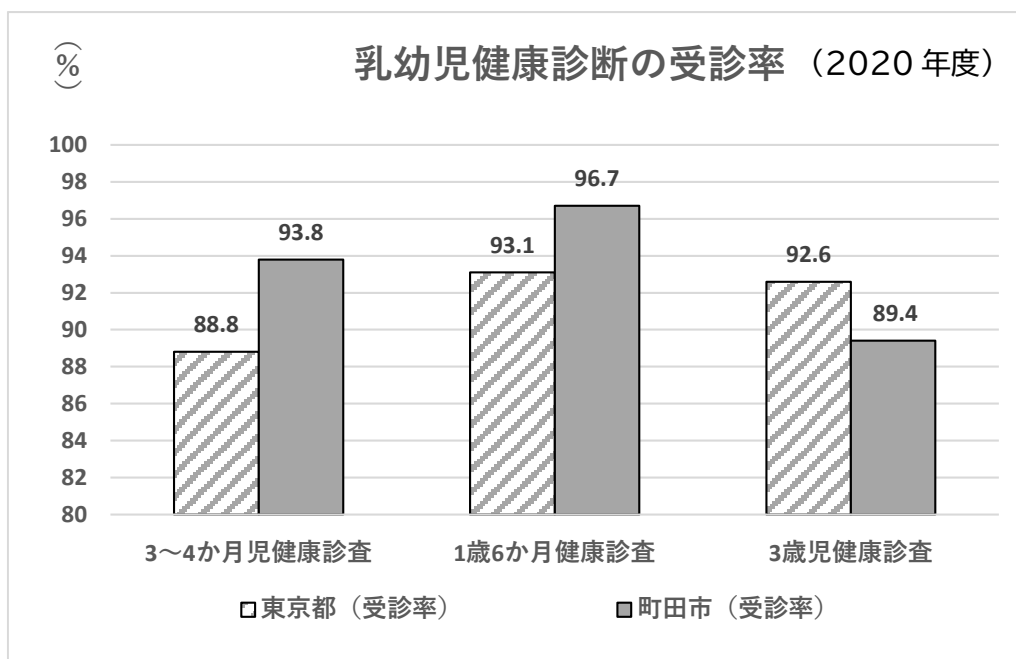


資料：南多摩保健医療圏 保健医療福祉データ集

⑨乳幼児健康診査の実施状況及び有所見率

町田市の乳幼児健康診断の受診率は、3～4か月児、1歳6か月児については、9割を超えています。3歳児では9割を下回っています。

有所見率は、各健康診査において町田市が東京都の割合を下回っています。

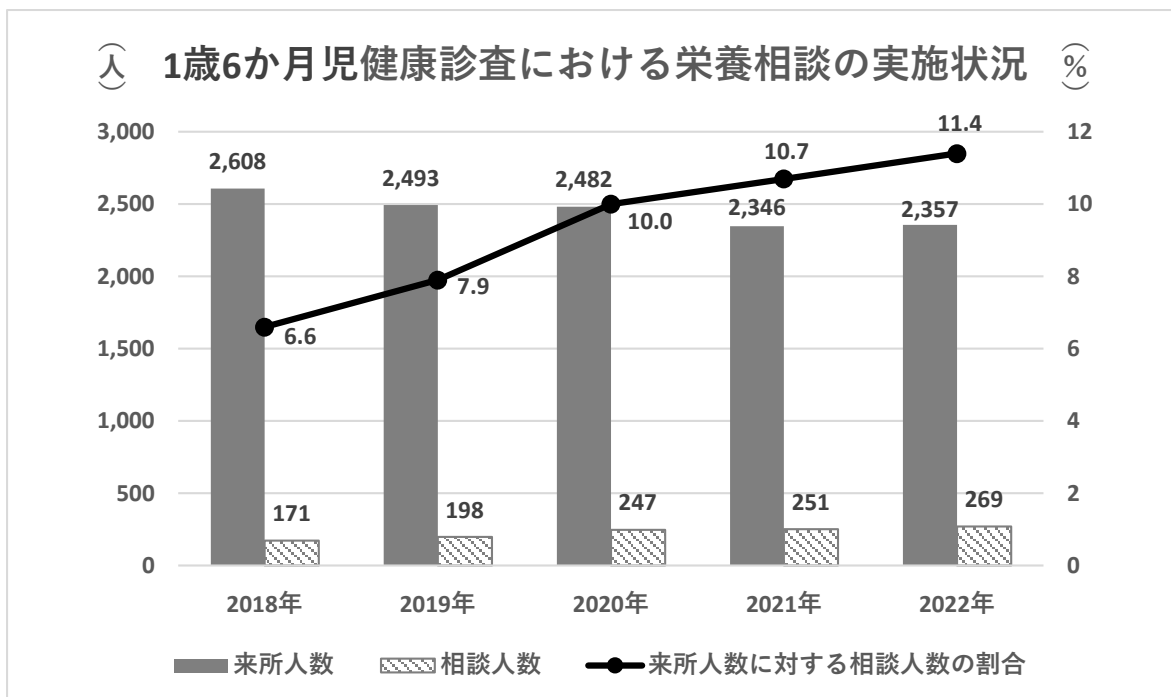
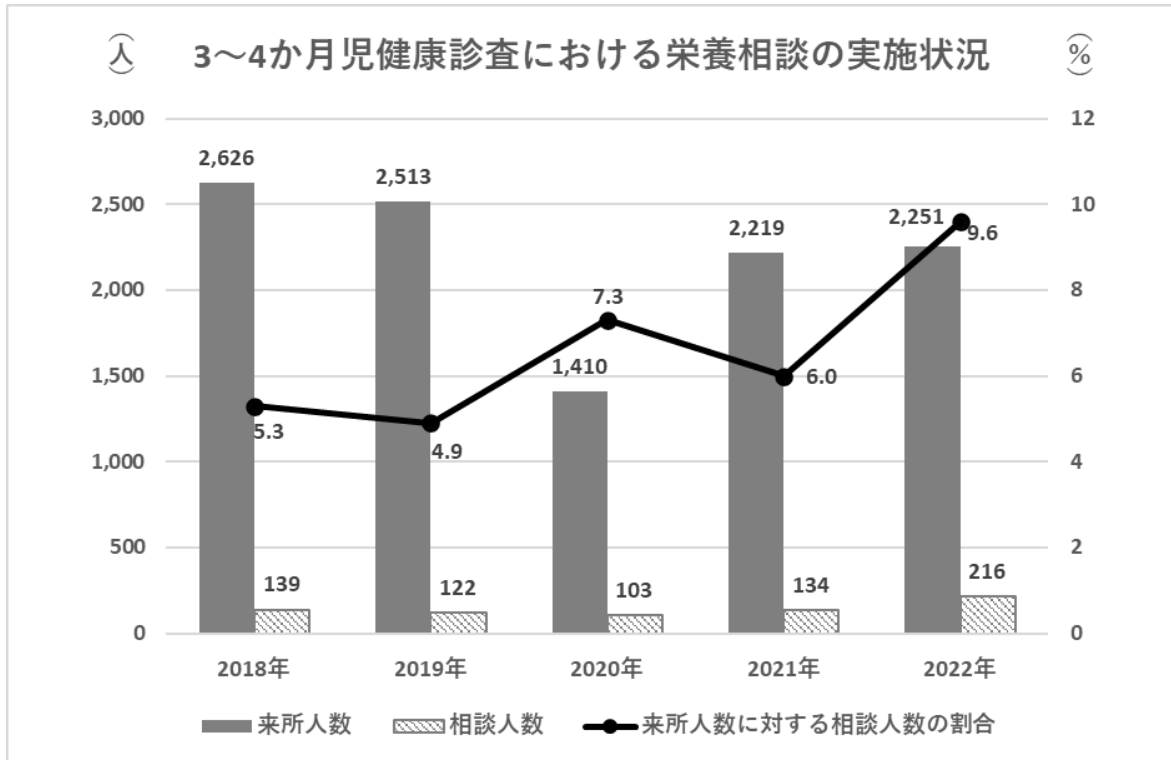


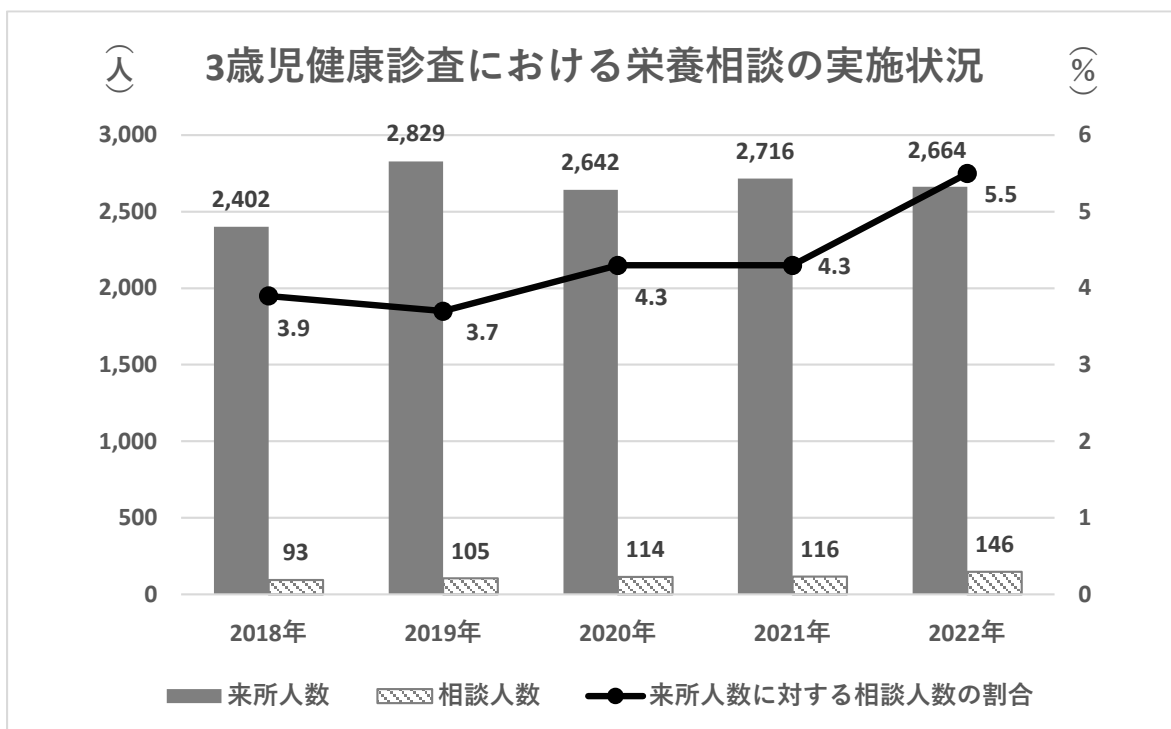
資料：南多摩保健医療圏 保健医療福祉データ集

⑩乳幼児健康診査における栄養相談の実施状況

町田市の3～4か月児健康診査における栄養相談人数は、2021年から2022年において82人増加しています。

また、1歳6か月健康診査における相談人数は、年々増加傾向にあり、2018年と2022年を比較すると、98人増加しています。

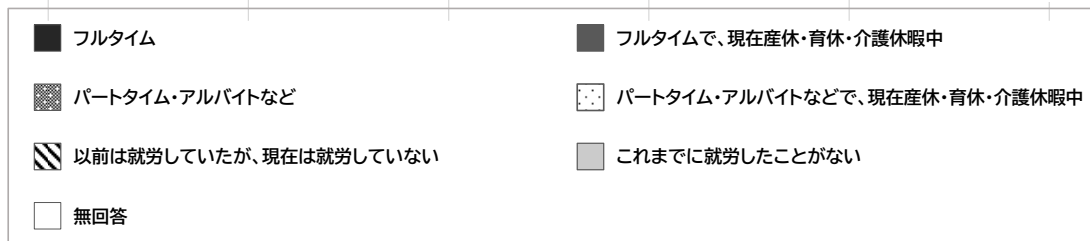
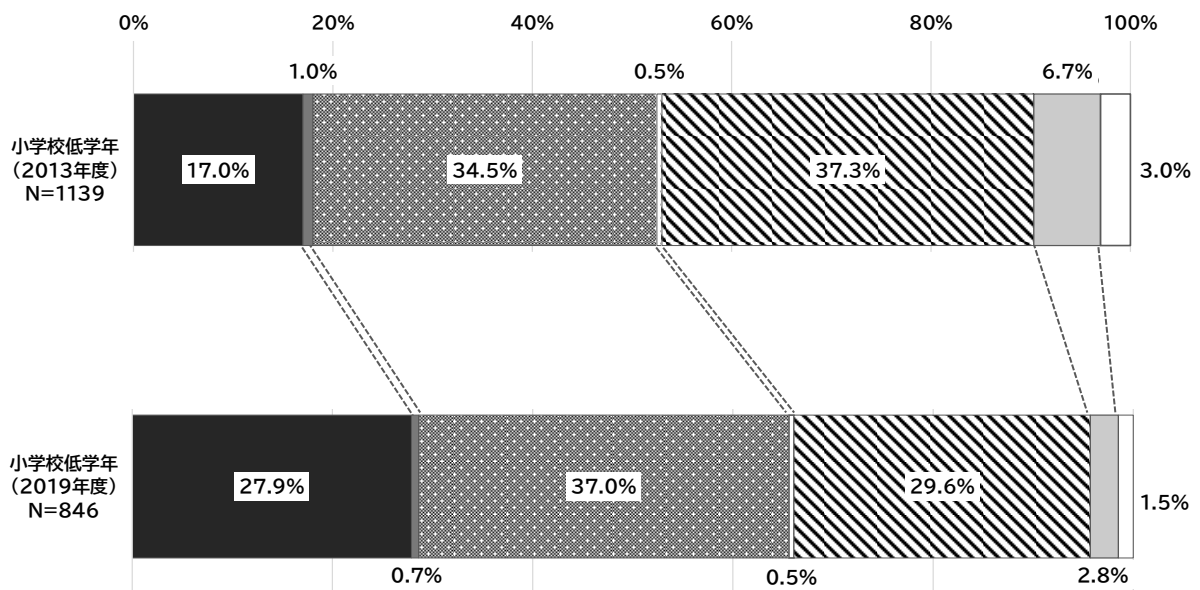
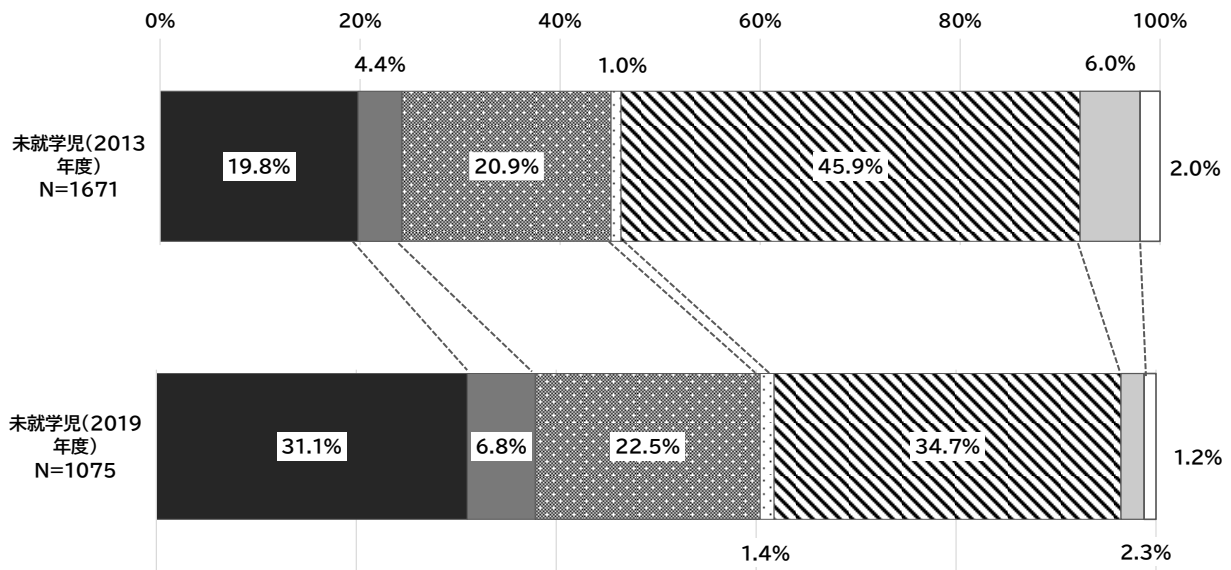




資料：町田市

①母親の就労状況

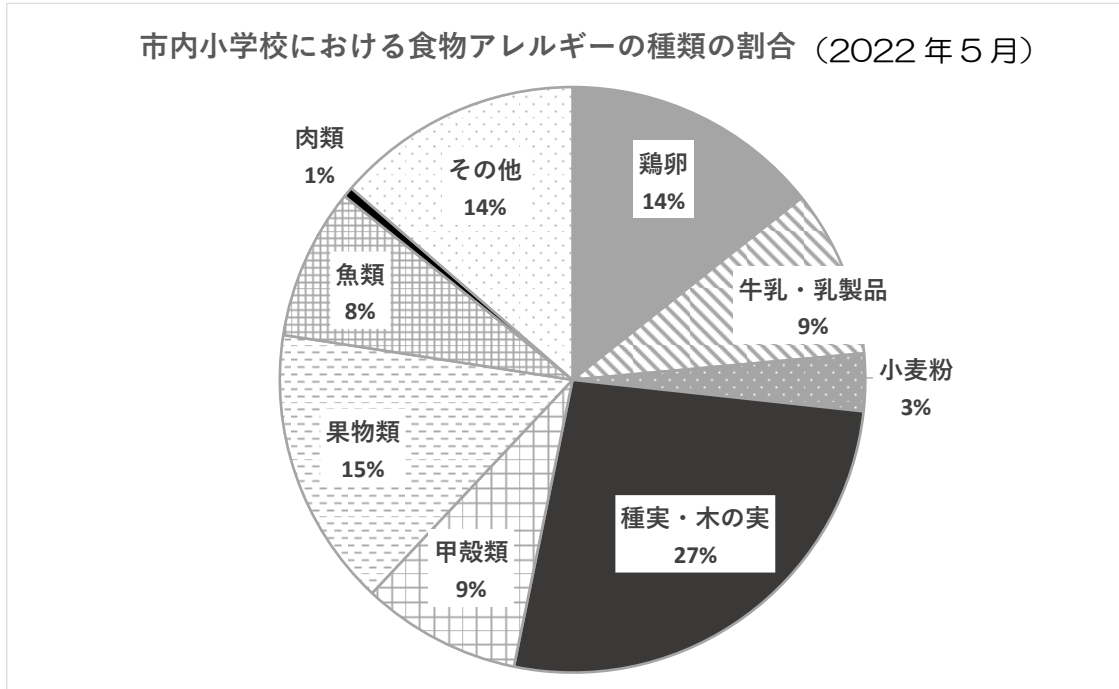
町田市の母親の就労率は、未就学児・小学校低学年児ともに増加しています。「フルタイム」の割合については、約10%の増加となっています。



資料：新・町田市子どもマスタープラン（後期）策定のためのアンケート調査

⑫市内小学校における食物アレルギーの種類割合

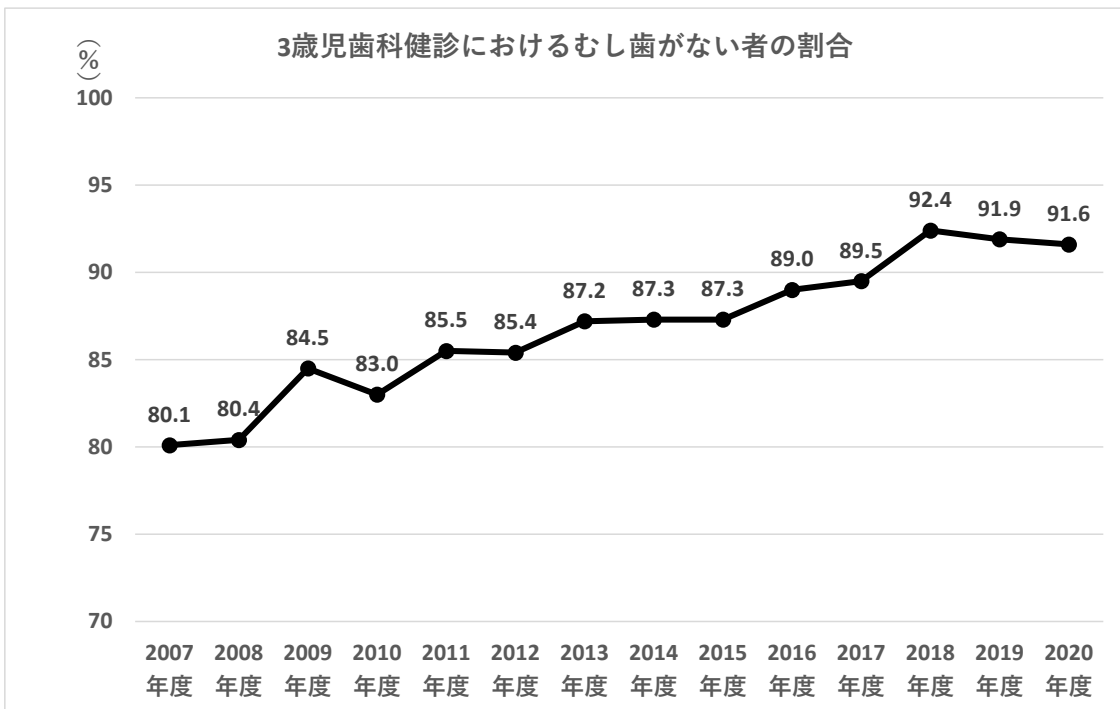
町田市の市内小学校における食物アレルギーの種類割合は、「種実・木の実」が27%と最も多く、次いで「果物類」が15%となっています。



資料:町田市

⑬3歳児歯科健診におけるむし歯がない者の割合

町田市の3歳児歯科健診におけるむし歯がない者の割合は、年々増加傾向にあり、2018年度以降、9割を超えています。

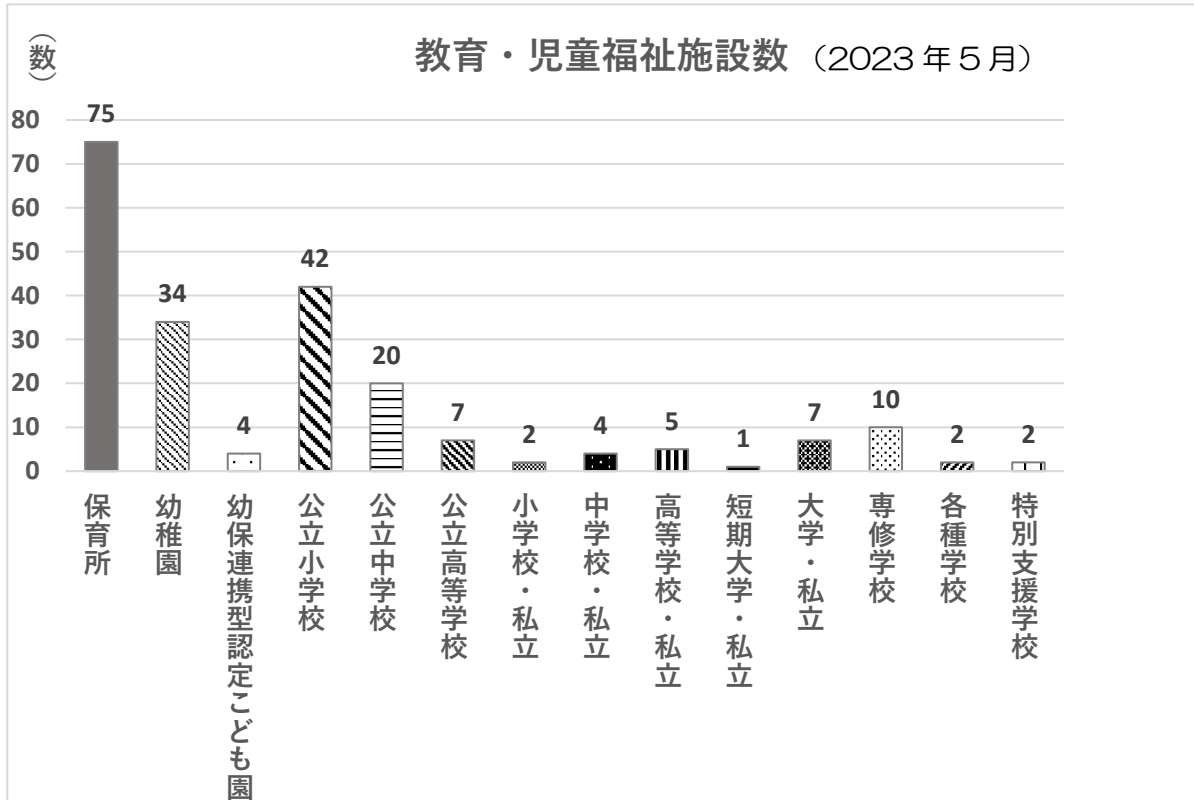


資料:まちだ子育てサイト

(3)食に関わる環境

①教育施設の数

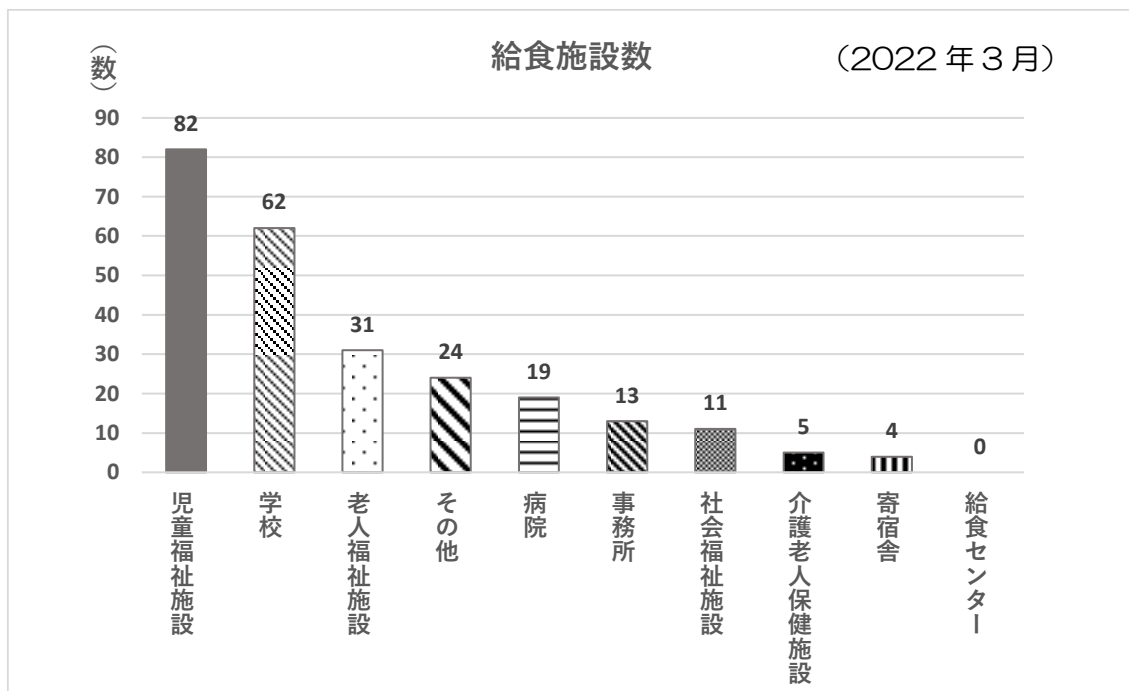
町田市には、保育所 75 園、幼稚園 34 園、小学校 44校、中学校 24校が設置されています。



②給食施設数

資料:町田市統計書

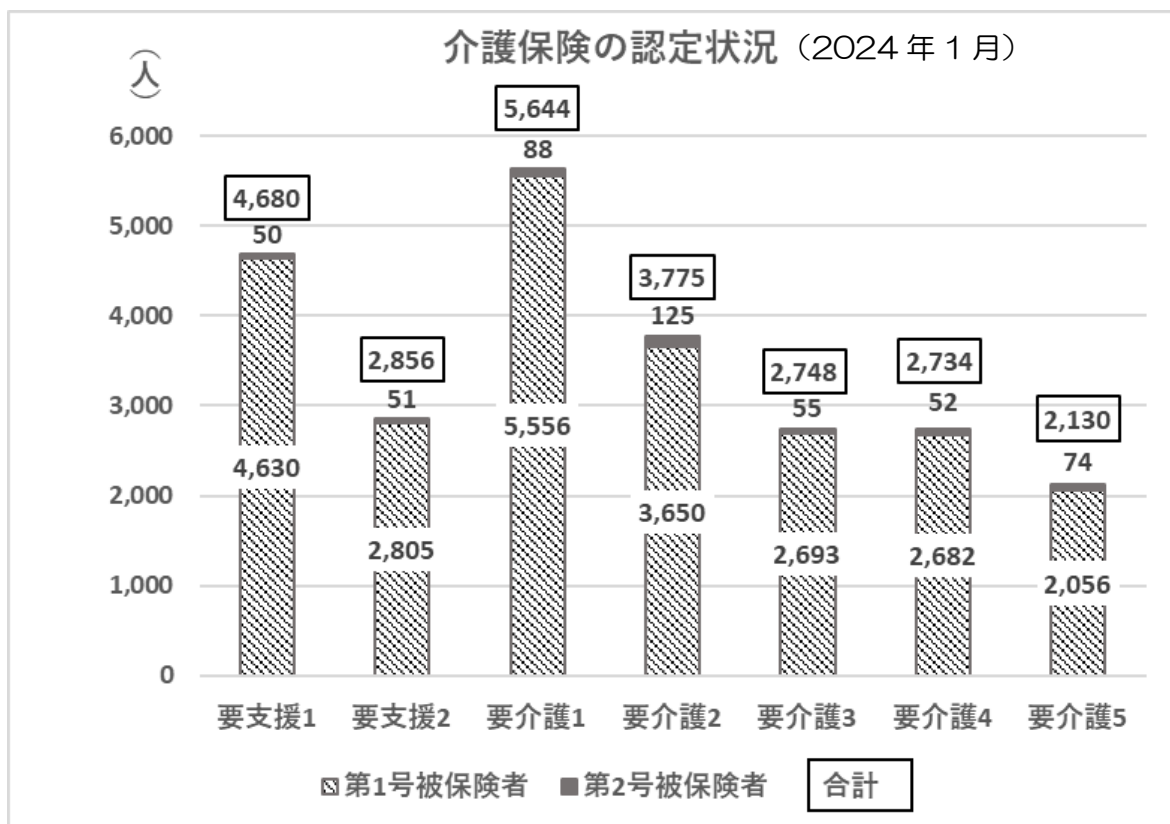
町田市の給食施設数は、「児童福祉施設」が 82 と最も多く、次いで「学校」が 62 となっています。



資料:南多摩保健医療圏 保健医療福祉データ集

③介護保険の認定状況

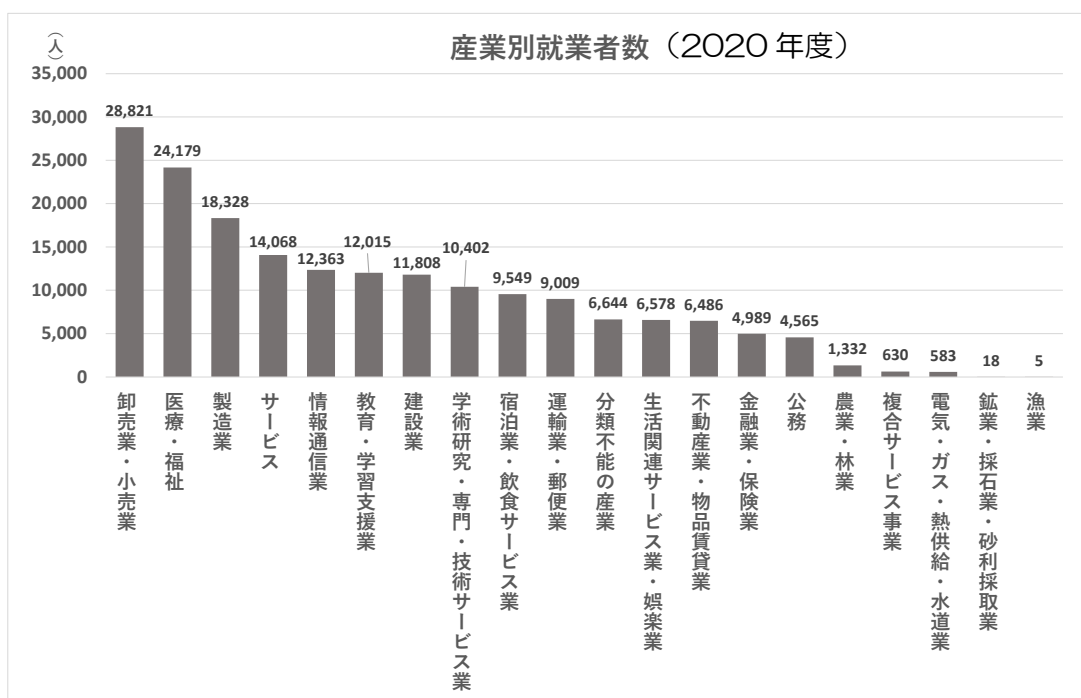
町田市の介護保険の認定状況として、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「要介護1」の人数が最も多くなっています。



資料:町田市ホームページ

④産業別就業者数

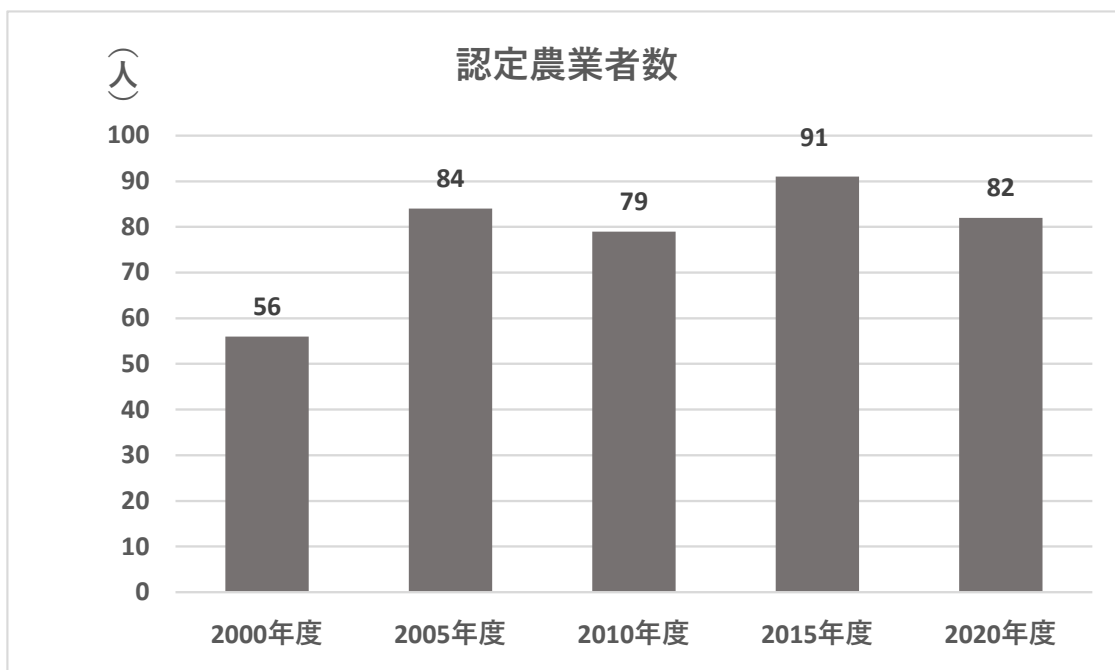
町田市の産業別就業者数は、「卸売業・小売業」が 28,821 人と最も多く、次いで「医療・福祉」が 24,179 人となっています。



資料:国勢調査

⑤農業人口

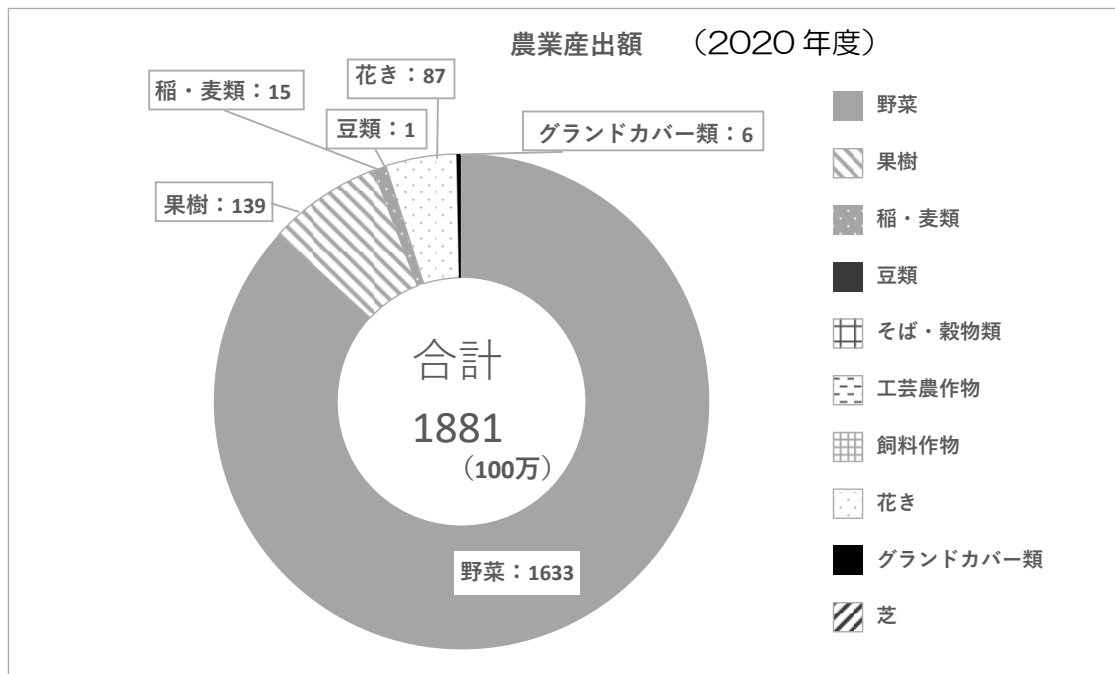
町田市の認定農業者数は、2005年度以降、80人前後で推移しています。



資料：第4次町田市農業振興計画

⑥農業生産品目別状況

町田市の農業産出額は、「野菜」が16億3,300万円と最も多く、次いで「果樹」が1億3,900万円となっています。



資料：東京都農作物生産状況調査結果報告書

⑦食品ロス

町田市の食品ロスは、74(家庭系):26(事業系)と「家庭系」ごみで多く発生しています。

<町田市の食品ロス発生状況(総量=家庭系:事業系)>

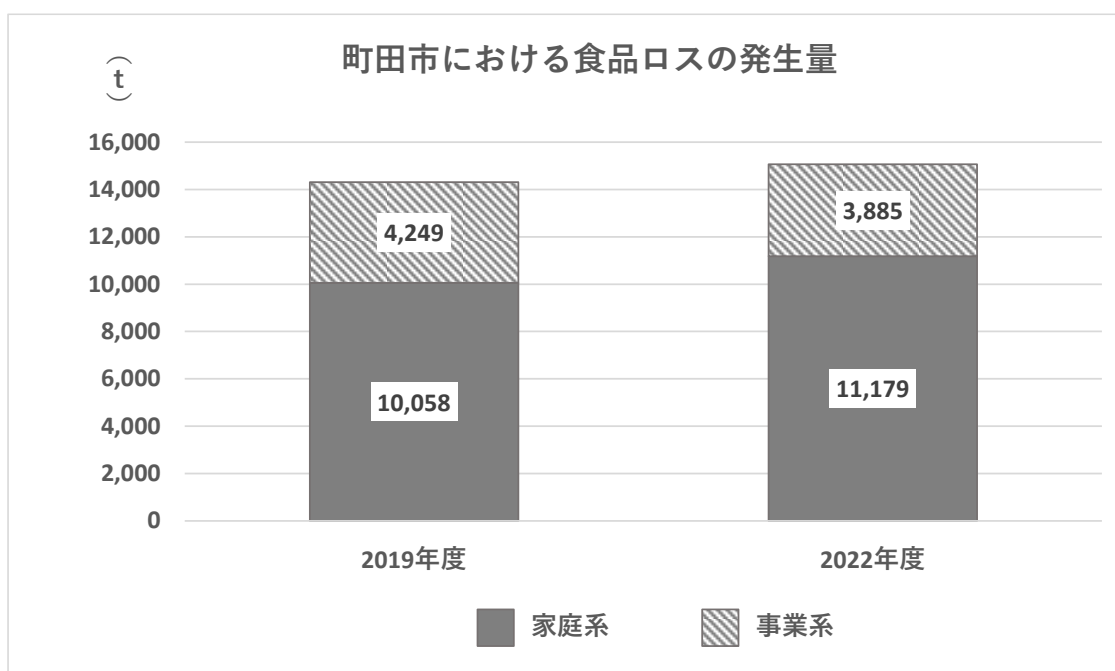
町田市 (2022年度)15,064トン=11,179トン:3,885トン

家庭系	事業系
74	26

資料:2022年ごみの組成調査結果

<町田市における食品ロスの発生量>

町田市では、家庭における食品ロス量が2019年度の10,058トンに対し、2022年度は11,179トンと3年間で1,121トン増加しています。



資料:町田市食品ロス削減推進計画

2 町田市民の保健医療意識調査の結果概要(食・栄養に関する項目の抜粋)

(1)調査の概要

①調査の目的

本調査は、まちだ健康づくり推進プラン 24-31 の策定に向けて、市民の健康や医療に対する意識、意見等を調査しました。現状を把握し、新たな政策課題の抽出を行うことを目的として実施しました。

②調査対象

住民基本台帳をもとに無作為抽出した、市内在住の2022年4月1日時点で0歳から5歳までの未就学児の保護者1,000人、6歳から17歳までの青少年の保護者1,000人、18歳から79歳までの成人3,000人。

③調査期間

2022年8月5日(金)～2022年8月31日(水)

④調査方法

配布:郵送

回収:郵送、WEB

⑤回収状況

回収状況は以下の通りです。

	A	B	C	D	E	F	G
	配布数	郵送 回答数	WEB 回答数	総回答数 (B+C)	全体回収率 (D/A)	前回 回収率	前回比
成人(※)	3,000 通	952 通	392 通	1,344 通	44.8%	49.0%	▲4.2%
青少年保護者	1,000 通	286 通	298 通	584 通	58.4%	57.9%	+0.5%
未就学児保護者	1,000 通	339 通	279 通	618 通	61.8%	61.1%	+0.7%
総計	5,000 通	1,577 通	969 通	2,546 通	50.9%	55.0%	▲4.1%

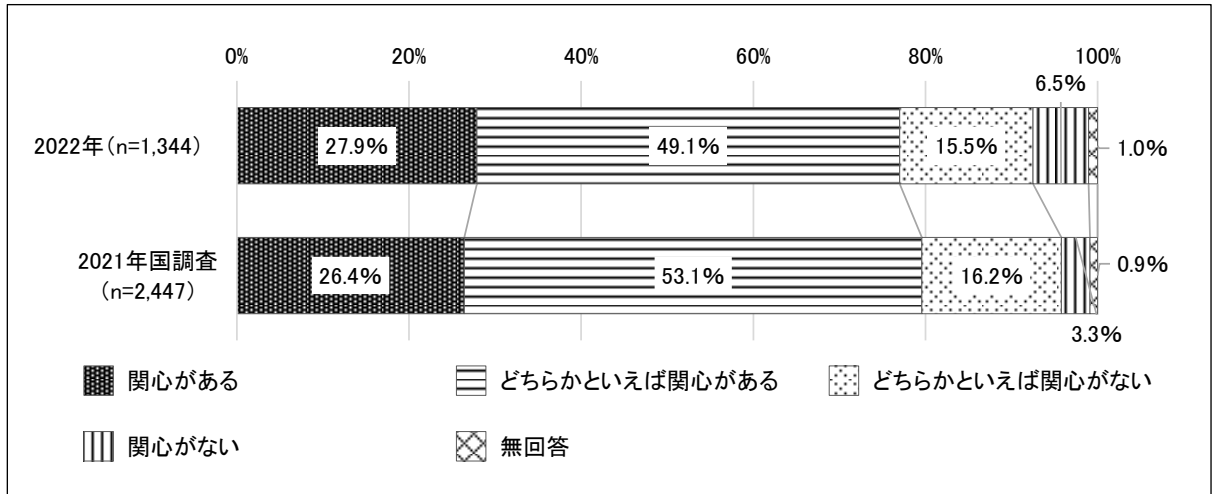
(※)成人:2016年度調査時の配布数は1,500通。

(2)結果(概要)

①食育への関心について

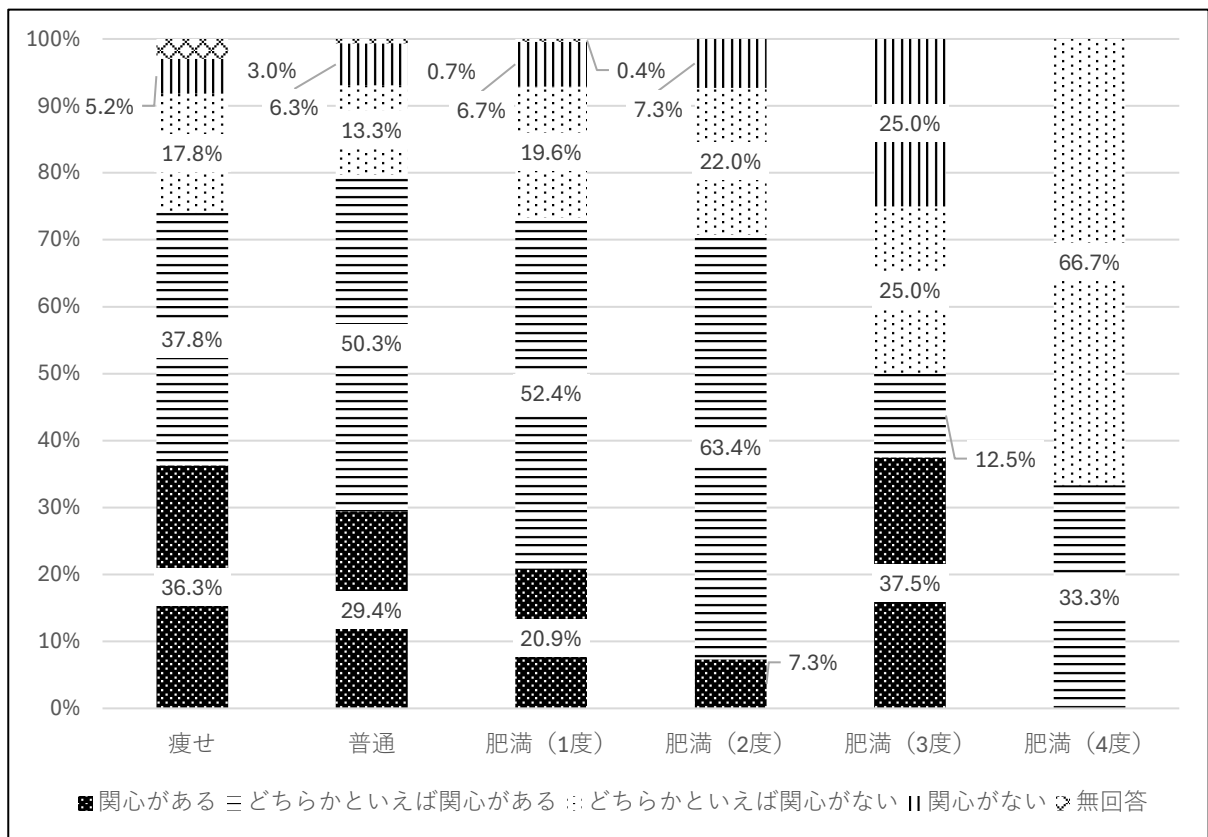
ア. 食育への関心

「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を併せた値は、市で 77.0%、国で 79.5%であり、市で低い結果となっています。



【食育への関心×体型(やせ、肥満)】

食育への関心度と体型の関連を予想しましたが、明確な関連性は見られませんでした。



【食育への関心×体型：クロス集計】

		回答者数	関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	関心がない	無回答
全体	人数	1,344	375	660	208	87	14
	構成比		27.9%	49.1%	15.5%	6.5%	1.0%
痩せ	人数	135	49	51	24	7	4
	構成比		36.3%	37.8%	17.8%	5.2%	3.0%
普通体重	人数	894	263	450	119	56	6
	構成比		29.4%	50.3%	13.3%	6.3%	0.7%
肥満1度	人数	225	47	118	44	15	1
	構成比		20.9%	52.4%	19.6%	6.7%	0.4%
肥満2度	人数	41	3	26	9	3	0
	構成比		7.3%	63.4%	22.0%	7.3%	0.0%
肥満3度	人数	8	3	1	2	2	0
	構成比		37.5%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%
肥満4度	人数	3	0	1	2	0	0
	構成比		0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
無回答	人数	38	10	13	8	4	3
	構成比		26.3%	34.2%	21.1%	10.5%	7.9%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

肥満度分類(日本肥満学会)

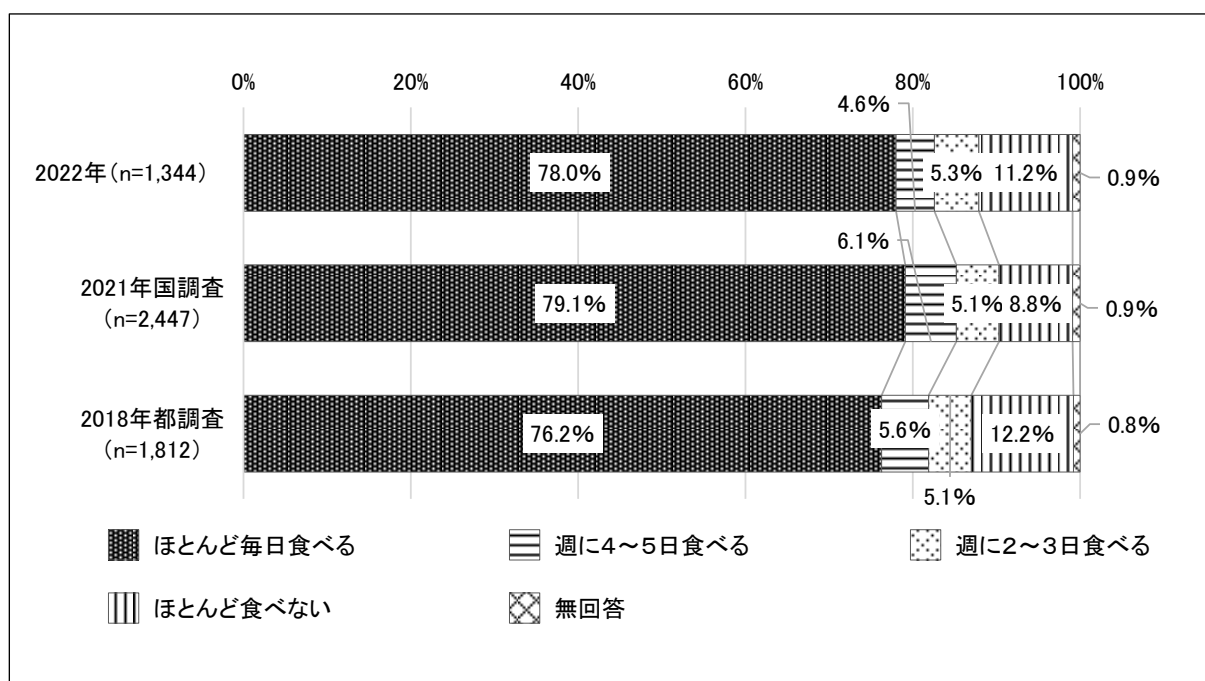
体型	BMI (kg/m ²)
痩せ	<18.5
普通	18.5≦～<25
肥満(1度)	25≦～<30
肥満(2度)	30≦～<35
肥満(3度)	35≦～<40
肥満(4度)	40≦

②食生活について

ア. 朝食の摂取状況

【朝食を食べるかどうか】

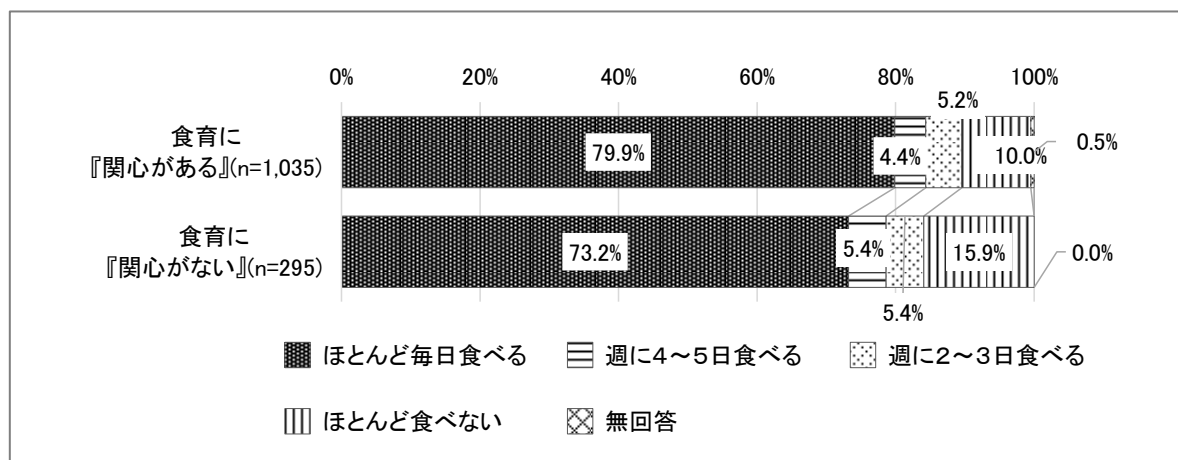
「ほとんど毎日食べる」の割合が78.0%と、最も高い結果でした。



【食育への関心×朝食の摂取状況】

朝食の摂取状況について、食育への関心度別でみると、「関心がある」方で朝食を「ほとんど毎日食べる」割合が高い結果となっています。

【食育への関心×朝食の摂取状況】



【食育への関心×朝食の摂取状況:クロス集計】

		回答者数	ほとんど毎日食べる	週に4~5日食べる	週に2~3日食べる	ほとんど食べない	無回答
全体	人数	1,344	1,048	62	71	151	12
	構成比		78.0%	4.6%	5.3%	11.2%	0.9%
関心がある	人数	375	311	14	20	27	3
	構成比		82.9%	3.7%	5.3%	7.2%	0.8%
どちらかといえば関心がある	人数	660	516	32	34	76	2
	構成比		78.2%	4.8%	5.2%	11.5%	0.3%
どちらかといえば関心がない	人数	208	151	14	11	32	0
	構成比		72.6%	6.7%	5.3%	15.4%	0.0%
関心がない	人数	87	65	2	5	15	0
	構成比		74.7%	2.3%	5.7%	17.2%	0.0%
無回答	人数	14	5	0	1	1	7
	構成比		35.7%	0.0%	7.1%	7.1%	50.0%

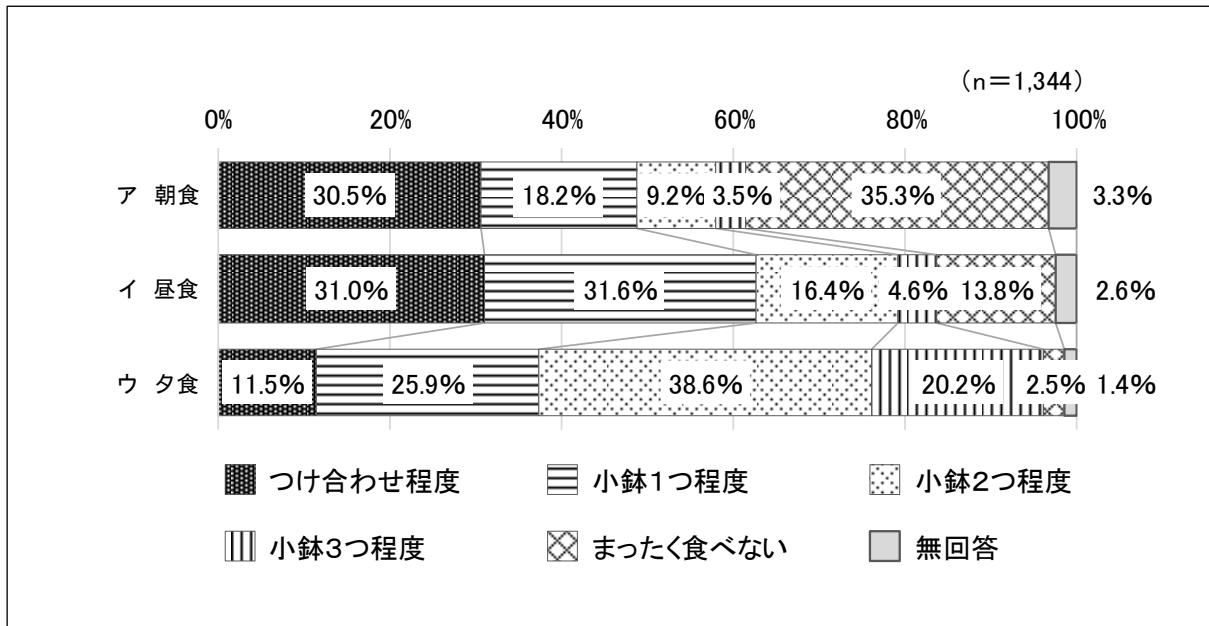
1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

イ. 野菜の摂取状況

【普段の野菜料理をどれくらい食べているか】

3食の中で野菜料理を「まったく食べない」割合は、朝食で最も高くなっています。

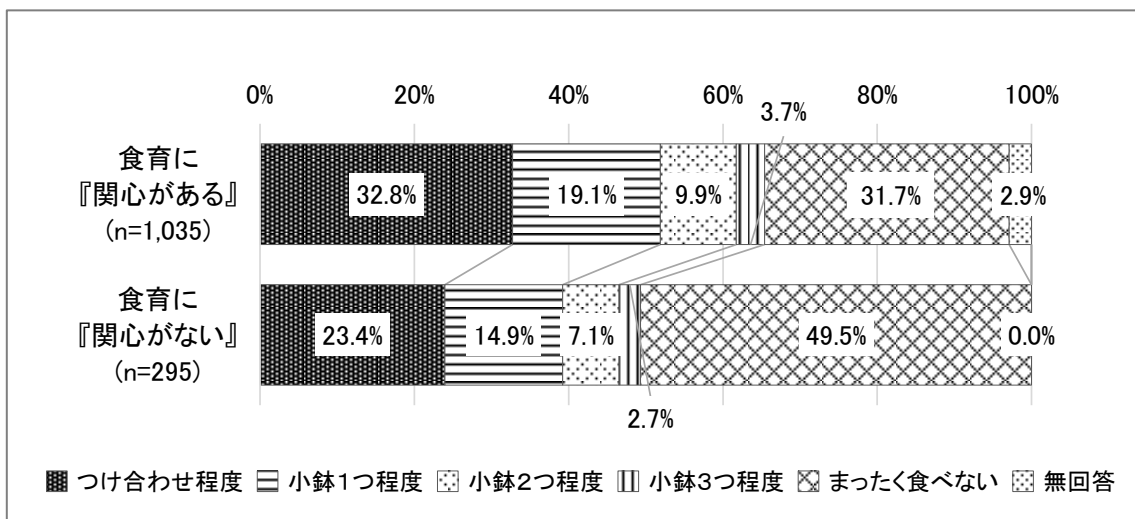
野菜料理を最も多くとる食事は、夕食となっています。



【食育への関心×野菜の摂取状況】

朝食における野菜摂取状況について、食育への関心度別にみると、「まったく食べない」の割合に大きな差が見られました。「関心がある」方で17.8%低く、野菜を食べている結果となりました。

【食育への関心×野菜の摂取状況(朝食)】



【食育への関心×野菜の摂取状況(朝食):クロス集計】

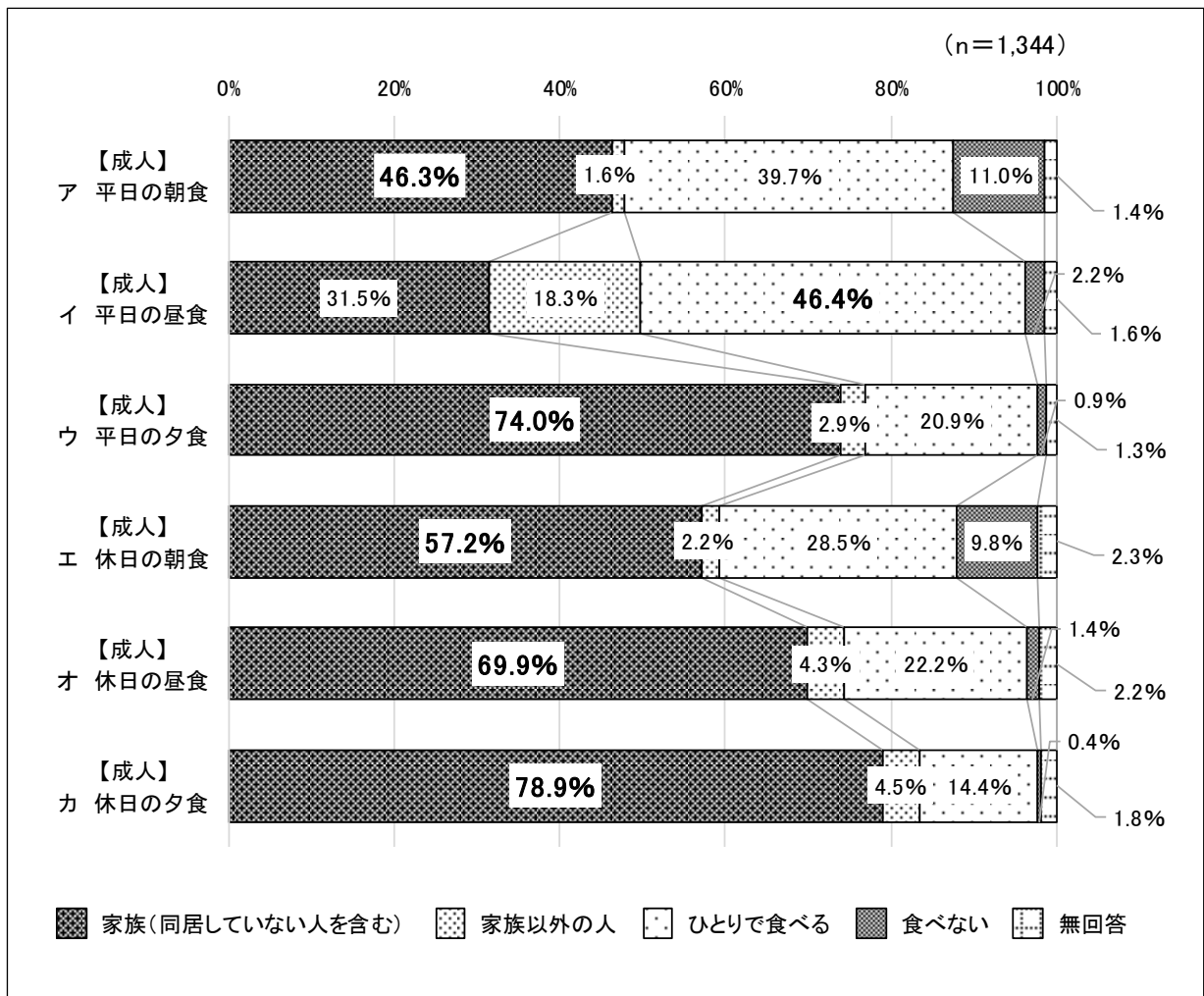
		回答者数	つけ合わせ程度	小鉢1つ程度	小鉢2つ程度	小鉢3つ程度	まったく食べない	無回答
全体	人数	1,344	410	244	123	47	475	0
	構成比		30.5%	18.2%	9.2%	3.5%	35.3%	0.0%
関心がある	人数	375	116	72	55	24	96	12
	構成比		30.9%	19.2%	14.7%	6.4%	25.6%	3.2%
どちらかといえば関心がある	人数	660	223	126	47	14	232	18
	構成比		33.8%	19.1%	7.1%	2.1%	35.2%	2.7%
どちらかといえば関心がない	人数	208	54	32	13	6	98	5
	構成比		26.0%	15.4%	6.3%	2.9%	47.1%	2.4%
関心がない	人数	87	15	12	8	2	48	2
	構成比		17.2%	13.8%	9.2%	2.3%	55.2%	2.3%
無回答	人数	14	2	2	0	1	1	8
	構成比		14.3%	14.3%	0.0%	7.1%	7.1%	57.1%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

ウ. 共食の状況

【食事をする相手(成人)】

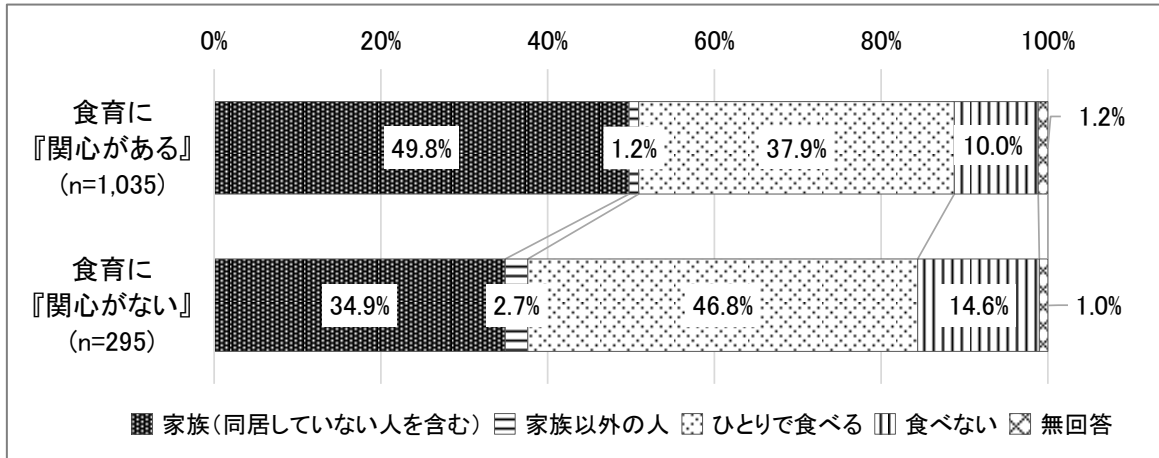
「家族」の割合が、平日の昼食を除いて、最も高くなっています。平日の昼食では、「ひとりで食べる」の割合が最も高くなっています。



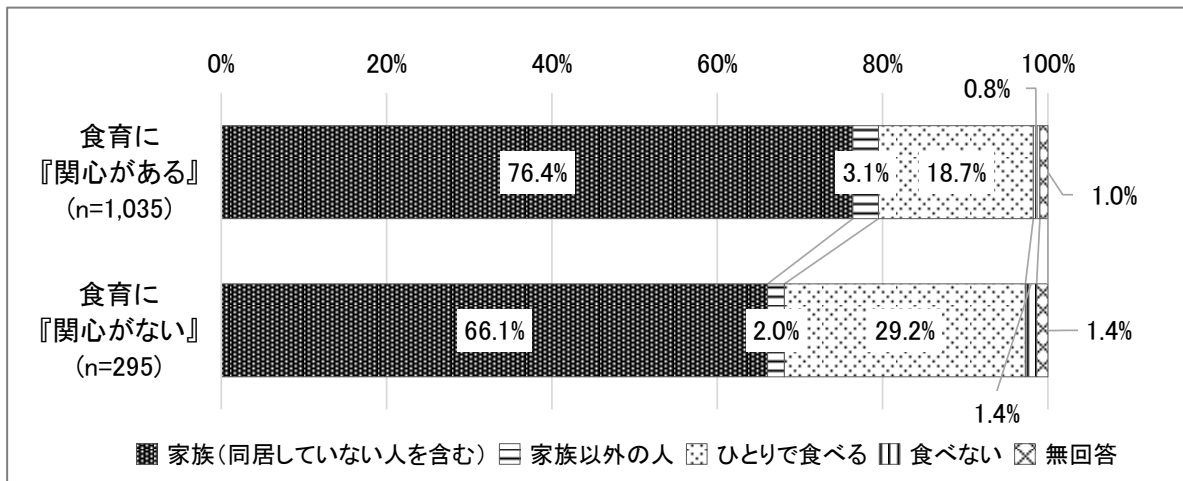
【食育への関心×食事をする相手(成人)】

食事をする相手について、食育への関心度別でみると、「関心がある」方で「家族」の割合が高い一方、「関心がない」方で「ひとりで食べる」の割合が高い結果となりました。その結果は、特に平日の朝食、及び平日の夕食で顕著となっています。

【食育への関心×食事をする相手(平日の朝食)】



【食育への関心×食事をする相手(平日の夕食)】



【食育への関心×食事をする相手(平日の朝食)】:クロス集計

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	622	21	534	148	19
	構成比		46.3%	1.6%	39.7%	11.0%	1.4%
関心がある	人数	375	216	6	120	24	9
	構成比		57.6%	1.6%	32.0%	6.4%	2.4%
どちらかといえば関心がある	人数	660	299	6	272	80	3
	構成比		45.3%	0.9%	41.2%	12.1%	0.5%
どちらかといえば関心がない	人数	208	76	4	96	29	3
	構成比		36.5%	1.9%	46.2%	13.9%	1.4%
関心がない	人数	87	27	4	42	14	0
	構成比		31.0%	4.6%	48.3%	16.1%	0.0%
無回答	人数	14	4	1	4	1	4
	構成比		28.6%	7.1%	28.6%	7.1%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

【食育への関心×食事をする相手(平日の昼食)】:クロス集計

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	423	246	624	30	21
	構成比		31.5%	18.3%	46.4%	2.2%	1.6%
関心がある	人数	375	147	74	141	4	9
	構成比		39.2%	19.7%	37.6%	1.1%	2.4%
どちらかといえば関心がある	人数	660	200	112	327	16	5
	構成比		30.3%	17.0%	49.5%	2.4%	0.8%
どちらかといえば関心がない	人数	208	53	39	109	4	3
	構成比		25.5%	18.8%	52.4%	1.9%	1.4%
関心がない	人数	87	19	18	44	6	0
	構成比		21.8%	20.7%	50.6%	6.9%	0.0%
無回答	人数	14	4	3	3	0	4
	構成比		28.6%	21.4%	21.4%	0.0%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

【食育への関心×食事をする相手(平日の夕食)】:クロス集計

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	994	39	281	12	18
	構成比		74.0%	2.9%	20.9%	0.9%	1.3%
関心がある	人数	375	292	16	58	1	8
	構成比		77.9%	4.3%	15.5%	0.3%	2.1%
どちらかといえば関心がある	人数	660	499	16	136	7	2
	構成比		75.6%	2.4%	20.6%	1.1%	0.3%
どちらかといえば関心がない	人数	208	143	3	56	2	4
	構成比		68.8%	1.4%	26.9%	1.0%	1.9%
関心がない	人数	87	52	3	30	2	0
	構成比		59.8%	3.4%	34.5%	2.3%	0.0%
無回答	人数	14	8	1	1	0	4
	構成比		57.1%	7.1%	7.1%	0.0%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

【食育への関心×食事をする相手(休日の朝食)】

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	769	29	383	132	31
	構成比		57.2%	2.2%	28.5%	9.8%	2.3%
関心がある	人数	375	252	11	79	18	15
	構成比		67.2%	2.9%	21.1%	4.8%	4.0%
どちらかといえば関心がある	人数	660	382	9	195	66	8
	構成比		57.9%	1.4%	29.5%	10.0%	1.2%
どちらかといえば関心がない	人数	208	93	5	74	32	4
	構成比		44.7%	2.4%	35.6%	15.4%	1.9%
関心がない	人数	87	35	3	33	16	0
	構成比		40.2%	3.4%	37.9%	18.4%	0.0%
無回答	人数	14	7	1	2	0	4
	構成比		50.0%	7.1%	14.3%	0.0%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

【食育への関心×食事をする相手(休日の昼食)】

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	940	58	298	19	29
	構成比		69.9%	4.3%	22.2%	1.4%	2.2%
関心がある	人数	375	273	16	67	5	14
	構成比		72.8%	4.3%	17.9%	1.3%	3.7%
どちらかといえば関心がある	人数	660	482	25	137	9	7
	構成比		73.0%	3.8%	20.8%	1.4%	1.1%
どちらかといえば関心がない	人数	208	126	10	66	2	4
	構成比		60.6%	4.8%	31.7%	1.0%	1.9%
関心がない	人数	87	51	6	27	3	0
	構成比		58.6%	6.9%	31.0%	3.4%	0.0%
無回答	人数	14	8	1	1	0	4
	構成比		57.1%	7.1%	7.1%	0.0%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

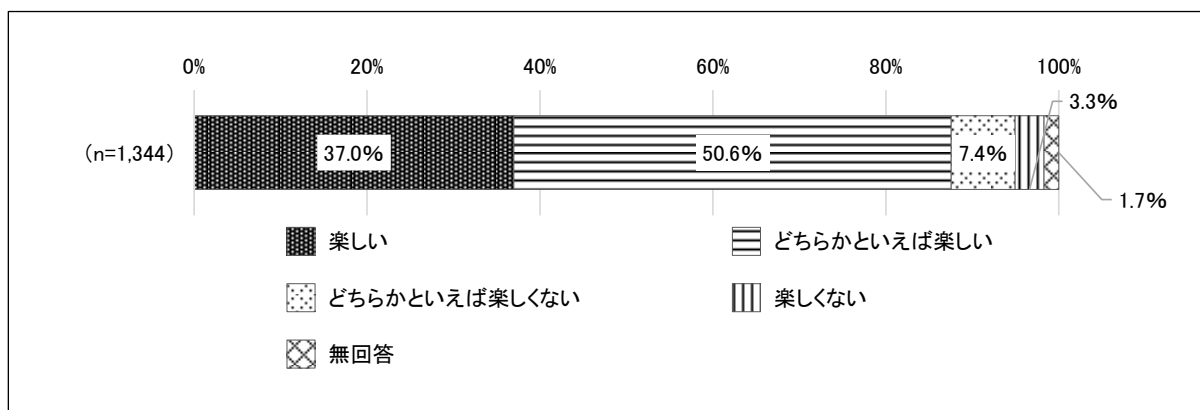
【食育への関心×食事をする相手(休日の夕食)】

		回答者数	家族(同居していない人を含む)	家族以外の人	ひとりで食べる	食べない	無回答
全体	人数	1,344	1,061	60	193	6	24
	構成比		78.9%	4.5%	14.4%	0.4%	1.8%
関心がある	人数	375	310	15	38	1	11
	構成比		82.7%	4.0%	10.1%	0.3%	2.9%
どちらかといえば関心がある	人数	660	535	25	92	3	5
	構成比		81.1%	3.8%	13.9%	0.5%	0.8%
どちらかといえば関心がない	人数	208	149	14	40	1	4
	構成比		71.6%	6.7%	19.2%	0.5%	1.9%
関心がない	人数	87	59	5	22	1	0
	構成比		67.8%	5.7%	25.3%	1.1%	0.0%
無回答	人数	14	8	1	1	0	4
	構成比		57.1%	7.1%	7.1%	0.0%	28.6%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

エ. 食事時間の楽しさ

全体では、「どちらかといえば楽しい」の割合が50.6%と最も高く、「楽しい」の37.0%と合わせると87.6%となっています。



性別・年齢別では、30代男性、10・20代、40代女性は「楽しい」の割合が最も高くなっています。

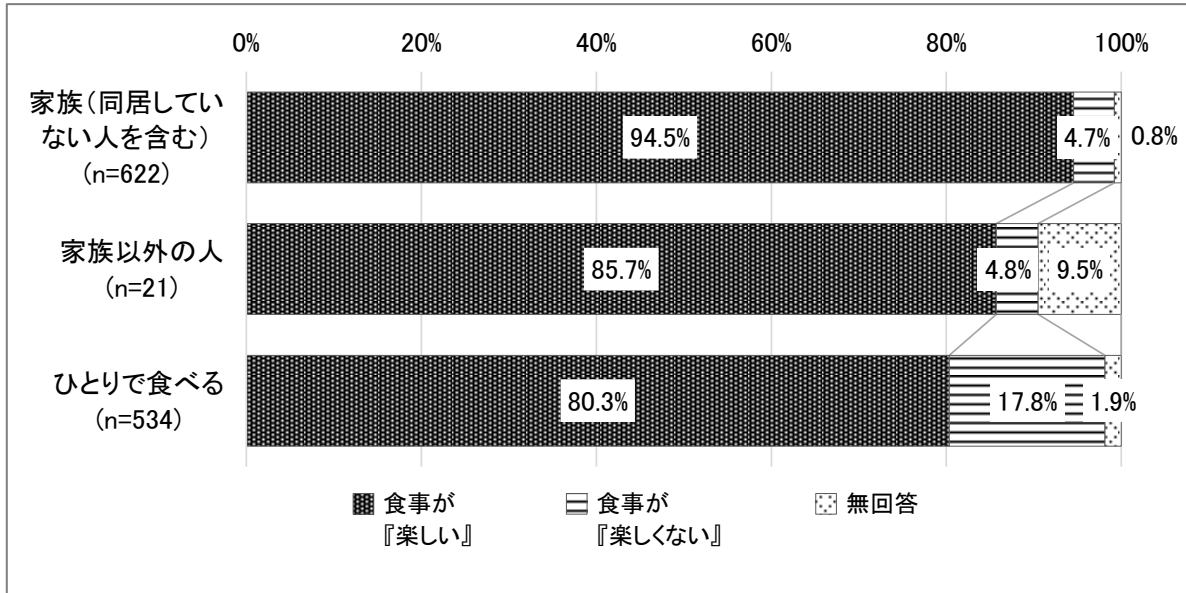
単位：%

区分		回答者数	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答
全体	合計	1,344人	37.0	50.6	7.4	3.3	1.7
	10・20代	140人	47.1	42.9	3.6	5.7	0.7
	30代	116人	43.1	44.0	10.3	1.7	0.9
	40代	219人	42.9	47.5	5.9	3.2	0.5
	50代	277人	34.3	54.2	7.2	2.2	2.2
	60代	239人	31.0	55.6	7.9	4.2	1.3
	70代	345人	33.3	52.5	8.1	3.2	2.9
男性	合計	587人	35.3	52.0	7.2	4.1	1.5
	10・20代	57人	35.1	56.1	1.8	7.0	0.0
	30代	45人	53.3	33.3	8.9	2.2	2.2
	40代	85人	35.3	50.6	9.4	4.7	0.0
	50代	124人	36.3	50.0	8.1	3.2	2.4
	60代	114人	28.1	57.9	7.0	5.3	1.8
	70代	160人	35.0	54.4	5.6	3.1	1.9
女性	合計	748人	38.5	49.7	7.6	2.5	1.6
	10・20代	83人	55.4	33.7	4.8	4.8	1.2
	30代	70人	37.1	51.4	11.4	0.0	0.0
	40代	134人	47.8	45.5	3.7	2.2	0.7
	50代	152人	32.9	57.2	6.6	1.3	2.0
	60代	124人	33.9	53.2	8.9	3.2	0.8
	70代	182人	31.9	51.1	10.4	3.3	3.3

【食事をする相手(平日朝)×食事の楽しさ】

食事の楽しさについて、食事をする相手(平日朝)別にみると、「家族」と食事をする方で食事が「楽しい」の割合が高い結果となっています。

【食事をする相手(平日朝)×食事の楽しさ】



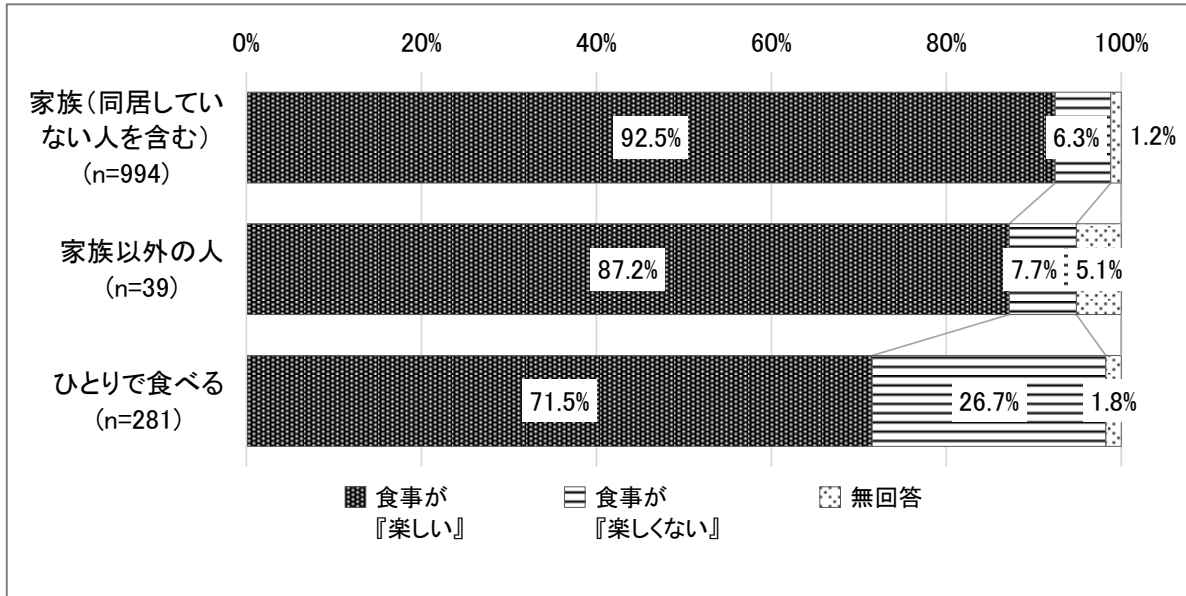
		回答者数	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答
全体	人数	1,344	497	680	99	45	23
	構成比		37.0%	50.6%	7.4%	3.3%	1.7%
家族(同居していない人を含む)	人数	622	281	307	25	4	5
	構成比		45.2%	49.4%	4.0%	0.6%	0.8%
家族以外の人	人数	21	5	13	0	1	2
	構成比		23.8%	61.9%	0.0%	4.8%	9.5%
ひとりで食べる	人数	534	148	281	65	30	10
	構成比		27.7%	52.6%	12.2%	5.6%	1.9%
食べない	人数	148	58	71	8	8	3
	構成比		39.2%	48.0%	5.4%	5.4%	2.0%
無回答	人数	19	5	8	1	2	3
	構成比		26.3%	42.1%	5.3%	10.5%	15.8%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

【食事をする相手(平日夕)×食事の楽しさ】

食事の楽しさについて、食事をする相手(平日夕)別にみると、「家族」と食事をする方で食事が「楽しい」の割合が高い結果となっています。「ひとりで食べる」との差は、平日朝以上に大きく、21.0%となっています。

【食事をする相手(平日夕)×食事の楽しさ:横棒グラフ】



【食事をする相手(平日夕)×食事の楽しさ:クロス集計】

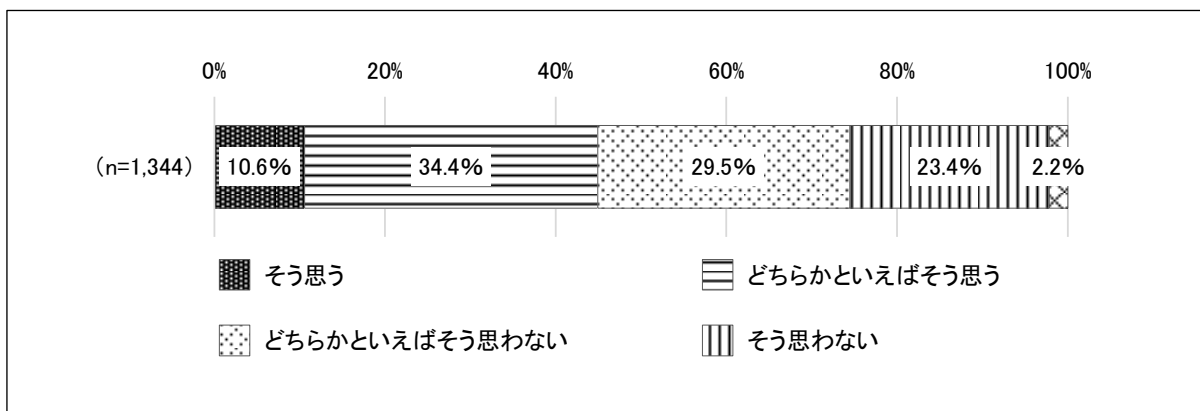
		回答者数	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答
全体	人数	1,344	497	680	99	45	23
	構成比		37.0%	50.6%	7.4%	3.3%	1.7%
家族(同居していない人を含む)	人数	994	412	507	48	15	12
	構成比		41.4%	51.0%	4.8%	1.5%	1.2%
家族以外の人	人数	39	17	17	1	2	2
	構成比		43.6%	43.6%	2.6%	5.1%	5.1%
ひとりで食べる	人数	281	58	143	50	25	5
	構成比		20.6%	50.9%	17.8%	8.9%	1.8%
食べない	人数	12	6	3	0	2	1
	構成比		50.0%	25.0%	0.0%	16.7%	8.3%
無回答	人数	18	4	10	0	1	3
	構成比		22.2%	55.6%	0.0%	5.6%	16.7%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

③地域生活・健康状態について

ア. 地域の人々との付き合い方

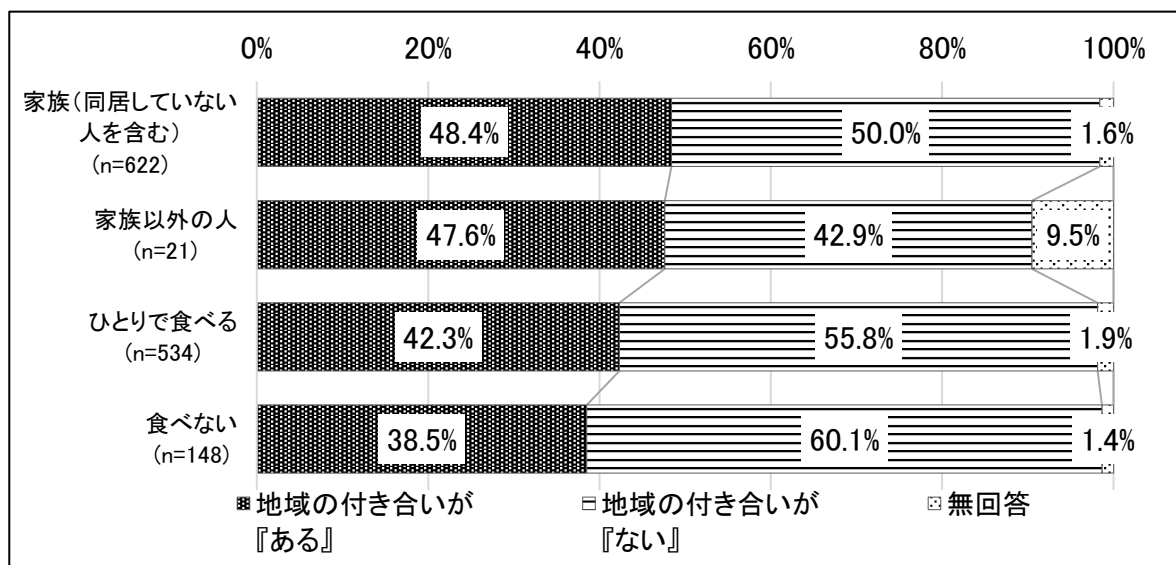
地域の人々が日頃から互いに気遣ったり、声をかけ合ったりしていると思うかについて、「どちらかといえばそう思う」の割合が34.4%と最も高くなっています。



【食事をする相手(平日朝)×地域の人々との付き合い方】

地域の人々との付き合い方について、食事をする相手(平日朝)別にみると、地域の付き合いがない方で、「ひとりで食べる」、「食べない」の割合が高い結果となっています。地域の付き合いがある方が共食をしている状況です。

【食事をする相手(平日朝)×地域の人々との付き合い方】



【食事をする相手(平日朝)×地域の人々との付き合い方:クロス集計】

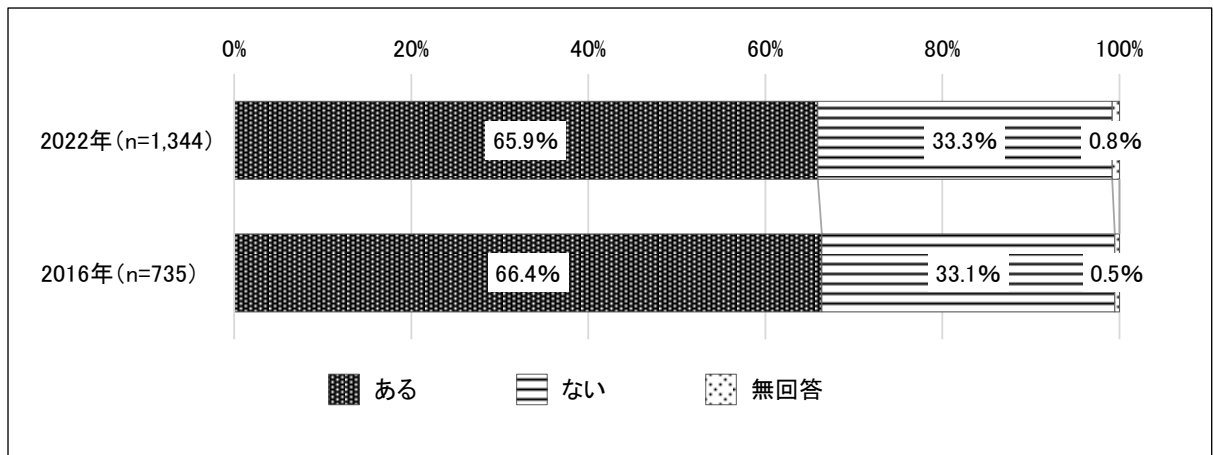
		回答者数	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答
全体	人数	1,344	142	462	397	314	29
	構成比		10.6%	34.4%	29.5%	23.4%	2.2%
家族(同居していな い人を含む)	人数	622	77	224	190	121	10
	構成比		12.4%	36.0%	30.5%	19.5%	1.6%
家族以外の人	人数	21	3	7	4	5	2
	構成比		14.3%	33.3%	19.0%	23.8%	9.5%
ひとりで食べる	人数	534	48	178	157	141	10
	構成比		9.0%	33.3%	29.4%	26.4%	1.9%
食べない	人数	148	8	49	43	46	2
	構成比		5.4%	33.1%	29.1%	31.1%	1.4%
無回答	人数	19	6	4	3	1	5
	構成比		31.6%	21.1%	15.8%	5.3%	26.3%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

イ. ストレス・悩みの有無

【日常生活における悩みやストレスの有無】

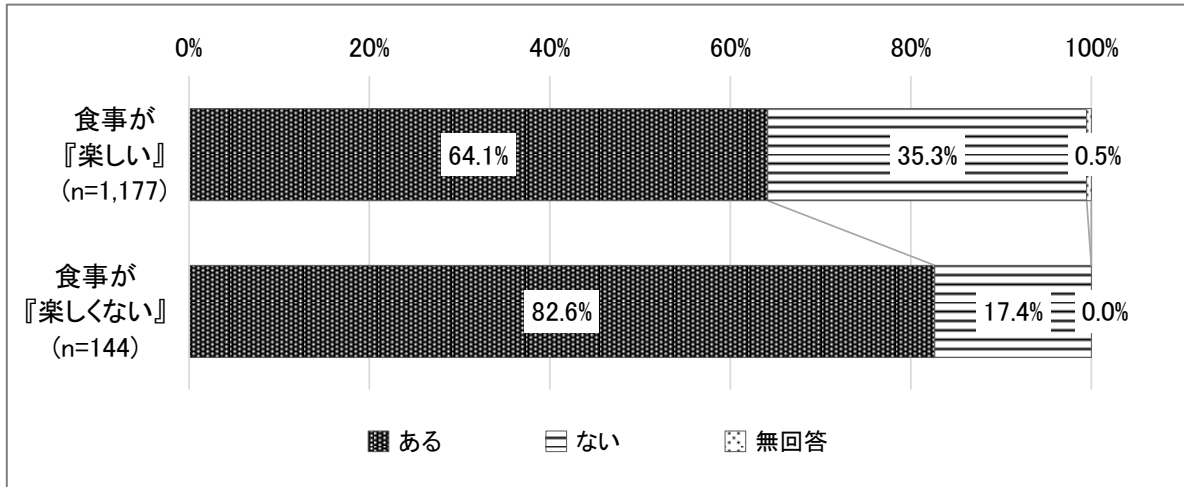
「ある」の割合が65.9%です。前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



【食事の楽しさ×日常生活における悩みやストレスの有無】

日常生活における悩みやストレスの有無について、食事の楽しさ別にみると食事が「楽しい」方で、ストレスが少ない状況です。

【食事の楽しさ×日常生活における悩みやストレスの有無：横棒グラフ】



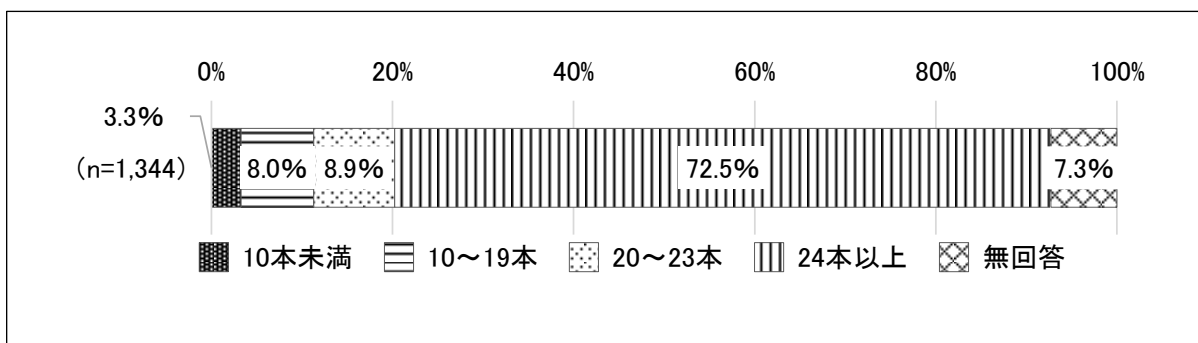
		回答者数	ある	ない	無回答
全体	人数	1,344	886	447	11
	構成比		65.9%	33.3%	0.8%
楽しい	人数	497	287	209	1
	構成比		57.7%	42.1%	0.2%
どちらかといえば 楽しい	人数	680	468	207	5
	構成比		68.8%	30.4%	0.7%
どちらかといえば 楽しくない	人数	99	82	17	0
	構成比		82.8%	17.2%	0.0%
楽しくない	人数	45	37	8	0
	構成比		82.2%	17.8%	0.0%
無回答	人数	23	12	6	5
	構成比		52.2%	26.1%	21.7%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

ウ. 咀嚼・口と歯の状況等

【歯の本数】

「24 本以上」の割合が 72.5%と最も高くなっています。歯の平均本数は 24.7 本です。



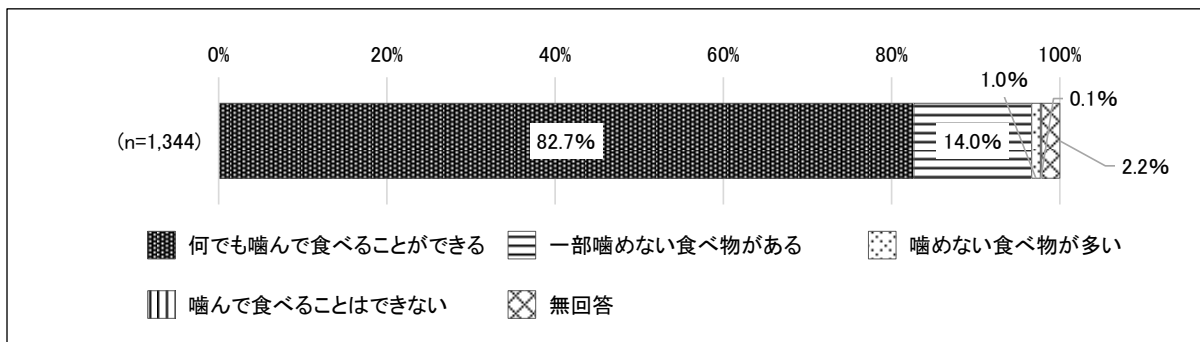
性別・年齢別では、男性は 60 代以降、女性は 70 代以降で、歯の本数が減っています。

単位: %

区分	回答者数	10本未満	10~19本	20~23本	24本以上	無回答	平均歯の本数	
全体	1,344人	3.3	8.0	8.9	72.5	7.3	24.7本	
男性	合計	587人	4.6	9.9	10.6	69.2	5.8	24.0本
	10・20代	57人	0.0	0.0	0.0	93.0	7.0	28.2本
	30代	45人	0.0	0.0	2.2	97.8	0.0	27.4本
	40代	85人	1.2	3.5	2.4	88.2	4.7	26.7本
	50代	124人	0.8	5.6	9.7	76.6	7.3	25.5本
	60代	114人	5.3	15.8	16.7	57.9	4.4	22.4本
	70代	160人	11.9	18.8	16.9	45.0	7.5	20.1本
女性	合計	748人	2.3	6.6	7.5	75.5	8.2	25.2本
	10・20代	83人	0.0	0.0	0.0	95.2	4.8	27.7本
	30代	70人	0.0	0.0	2.9	97.1	0.0	27.7本
	40代	134人	0.7	0.0	6.0	87.3	6.0	27.0本
	50代	152人	0.0	3.3	6.6	77.6	12.5	26.0本
	60代	124人	0.8	12.1	8.9	71.0	7.3	24.5本
	70代	182人	7.7	15.9	13.7	51.1	11.5	21.3本

【食べ物を噛んで食べられるか】

「何でも噛んで食べることができる」の割合が82.7%と最も高くなっています。



年齢別では、年代が上がるごとに、何でも噛んで食べることができる人の割合は減少しています。60代以上では、「一部噛めない食べ物がある」、「噛めない食べ物が多い」、「噛んで食べることはできない」と答えた人の割合が約2割となっています。

単位：%

区分	回答者数	何でも噛んで食べることができる	一部噛めない食べ物がある	噛めない食べ物が多い	噛んで食べることはできない	無回答	
全体	合計	1,344人	82.7	14.0	1.0	0.1	2.2
	10・20代	140人	92.9	4.3	0.7	0.7	1.4
	30代	116人	92.2	6.9	0.9	0.0	0.0
	40代	219人	92.2	7.3	0.0	0.5	0.0
	50代	277人	84.5	12.3	1.4	0.0	1.8
	60代	239人	77.0	18.8	1.7	0.0	2.5
	70代	345人	72.5	22.6	0.9	0.0	4.1
男性	合計	587人	80.9	15.0	1.7	0.3	2.0
	10・20代	57人	93.0	3.5	1.8	1.8	0.0
	30代	45人	93.3	4.4	2.2	0.0	0.0
	40代	85人	91.8	7.1	0.0	1.2	0.0
	50代	124人	86.3	9.7	2.4	0.0	1.6
	60代	114人	73.7	21.1	2.6	0.0	2.6
	70代	160人	68.1	26.3	1.3	0.0	4.4
女性	合計	748人	84.5	13.1	0.5	0.0	1.9
	10・20代	83人	92.8	4.8	0.0	0.0	2.4
	30代	70人	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0
	40代	134人	92.5	7.5	0.0	0.0	0.0
	50代	152人	82.9	14.5	0.7	0.0	2.0
	60代	124人	79.8	16.9	0.8	0.0	2.4
	70代	182人	76.4	19.8	0.5	0.0	3.3

【歯の本数×食べ物を噛んで食べられるか】

食べ物を噛んで食べられるかについて、歯の本数別にみると、歯の本数が減るほどに食べられない方が増えています。「10本未満」では、噛めない食べ物がある方が半数以上となっています。

		回答者数	何でも 噛んで 食べること ができる	一部 噛めない 食べ物がある	噛めない 食べ物が 多い	噛んで 食べること はできない	無回答
全体	人数	1,344	1,111	188	14	2	29
	構成比		82.7%	14.0%	1.0%	0.1%	2.2%
10本未満	人数	44	15	22	2	1	4
	構成比		34.1%	50.0%	4.5%	2.3%	9.1%
10～19本	人数	108	51	45	7	0	5
	構成比		47.2%	41.7%	6.5%	0.0%	4.6%
20～23本	人数	120	82	37	0	0	1
	構成比		68.3%	30.8%	0.0%	0.0%	0.8%
24本以上	人数	974	900	64	3	1	6
	構成比		92.4%	6.6%	0.3%	0.1%	0.6%
無回答	人数	98	63	20	2	0	13
	構成比		64.3%	20.4%	2.0%	0.0%	13.3%

1位:全体が黒で太文字 2位:全体が灰色

3 用語解説

【き】

共食(p4、19、49、56)

家族や友人、職場や地域の人などの仲間と食卓を囲んで、コミュニケーションをとりながら食事をする
こと。

筋・骨格(系疾患)(p32)

関節、骨、筋肉、靭帯、腱、滑液包で発生する疾患。関節リウマチや痛風などの関節痛や、骨髄炎、線維
筋痛症、骨粗しょう症などを含む。

【け】

健康寿命(p22)

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

【し】

食育推進計画(p1、3)

食育基本法に基づき、食育の推進に関する基本的な方針や目標について定めたもの。

町田市食育推進計画は、食育基本法(第18条)に基づく市町村食育推進計画として位置付けている。

食物アレルギー(p9、19、39)

食べたり、触ったり、吸い込んだりした食物に対して、体を守るはずの免疫システムが、過剰に反応して
起きる有害な症状のこと。食物アレルギーによって、皮膚、粘膜、呼吸器、消化器、循環器などのさまざま
な臓器に症状が現れる。

食品ロス(p17、43)

本来食べられたにもかかわらず、捨てられる食品のこと。「賞味期限切れで手付かずのまま捨てる」「作
りすぎによる食べ残し」「食べられるところを過剰除去する」などがある。日本における「食品ロス」は 523
万トン(農林水産省、及び環境省「令和3年度推計」)。町田市における燃やせるごみ・燃やせないごみに
占める食品ロスの割合は、16%となっている。(2022年度ごみの組成調査結果)

【せ】

生活習慣病(p17、22)

食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称。
「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」「循環器疾患(脳卒中や心疾患)」「悪性新生物(がん)」などがある。

精神(疾患)(p32)

気分の落ち込みや幻覚・妄想など心身にさまざまな影響が出る疾患のこと。うつ病や双極性障害(躁う
つ病)、統合失調症など。

成人健康診査(成人健診)(p31)

生活習慣病の予防や早期発見・改善、継続的な健康管理を目的に保険者が実施する、定期的な健康診断のこと。対象者や検査の内容は、保険者によって異なる。

摂食嚥下障がい(p18、34)

食べること・飲み込むことの障がい、食事や水分などがうまく食べられない・飲み込めないような状態のこと。

0歳平均余命(p28)

0歳児が、その後平均して何年生きられるかを示した年数。平均寿命と同じ値。

【そ】

咀嚼(p59)

食物を摂取して粉碎し、唾液と混和して飲み込みやすい形状にするまでの一連の過程。

【ち】

地産地消(p7、14、20、21)

その地域で生産された農林水産物(食用に供されるものに限る。)を、その生産された地域内において消費する取組。流通コストが削減されるだけでなく、消費者と生産者の交流が図られることで、食育の推進につながる。

【て】

低栄養(p8)

食欲の低下や、噛む力が弱くなることによって、食事をとりづらくなる。徐々に食事量が減り、身体を動かすために必要なエネルギーや、筋肉、皮膚、内臓の身体をつくる栄養素が不足している状態。

低出生体重児(p34)

出生体重が2500g未満の児。

【ふ】

フレイル(p8)

加齢とともに、心身の活力(例えば筋力や認知機能等)が低下し、生活機能障がい、要介護状態、死亡などの危険性が高くなった状態で、適切な介入・支援によって、生活機能の維持向上が可能な状態。

【ま】

まちだ健康づくり推進プラン 24-31(p21)

健康増進法第8条第2項に定められている「市町村健康増進計画」であり、上位計画である「町田市地域ホッとプラン」が目指す「人と人がつながり、多様な価値を尊重し合うことで、誰もが自分の役割や活躍の期待を得られる共生社会」を健康の視点から支える。

町田市食育ボランティア(p11、15)

町田市食育推進計画に基づく養成講座を修了し、市が登録した方々のこと。「食を通じて家族や地域とつながる」ことを目的に、まちだすいとんの調理実習や食文化(和食)・マナーに関するクイズ・ゲーム、紙芝居の読み聞かせ等、子どもから大人まで楽しめる幅広い活動を行っている。

【ゆ】

有所見率(p35)

健康診断等の結果から何らかの異常が認められた人の割合。

【め】

メタボリックシンドローム(Metabolic Syndrome) (p31)

内臓脂肪蓄積に加えて、空腹時血糖や血清脂質(中性脂肪やコレステロール)・血圧が一定以上の値を示している状態のこと。メタボと略される。

【ら】

ライフステージ(p21)

人生のうち、子どもから大人へといった生物学的な状況の変化をいくつかの段階に分けたもの。

【ろ】

ローリングストック(p18)

普段の食品を少し多めに買って置き、賞味期限の古いものから消費して、消費した分を買い足すこと。常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つ。

65歳健康寿命(p29)

65歳の人が介護を必要とせず、健康で日常生活を支障なく送ることができる平均年齢。